



愛知陸協広報

第 23 号

平成 23 年 9 月 30 日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目 19 番 16 号千代田ビル 7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

正に「金メダル」室伏選手おめでとうございます！



写真は中日新聞提供

8月29日、韓国大邱で開催された世界陸上選手権男子ハンマー投にて、愛知出身の室伏広治選手（ミズノ）が、81m24で見事金メダルを獲得しました。

6投のうち80mを4度超える安定した投げで他を寄せつけず、また、36歳という年齢も世界選手権史上初で、「鉄人」とも「哲人」とも言われるなど、正に「金メダル」でした。来年のロンドン五輪での活躍が期待されます。

本当におめでとうございます。

また、世界陸上選手権には地元愛知から、尾田賢典選手（マラソン：トヨタ自動車）、市川華菜選手（4×100mR：中京大学）と今井沙緒里選手（4×100mR：至学館大学）も参加し、それぞれ活躍しました。



写真は、愛知陸協から今井選手に
激励金を手渡す場面

上半期を終えて

理事長 外山 幸男



今年の夏は大会が愛知に集中し、東海中学総体、日・韓・中ジュニア交流競技会、東海陸上競技選手権大会・東海小学生リレー競走大会が瑞穂陸上競技場で開催されました。猛暑のなか大会の運営に協力の競技役員と、出場した選手の活躍に感謝し、今後ともよろしく願います。秋には継続2年目の日本ジュニア・ユース大会が控えており、選手の活躍を期待しています。

7月のアジア陸上選手権兵庫・神戸大会には愛知から5名の選手が出場し、4名がメダルを獲得する活躍がありました。世界陸上競技選手権大邱大会のハンマー投で室伏広治選手（ミズノ）が実力を発揮し、金メダルを獲得しました。これまでの努力に敬意を表するとともにお祝い申し上げます。他にも世界選手権には、マラソンの尾田賢典（トヨタ自動車）、4×100mRの市川華菜（中京大学）と今井沙緒里（至学館大学）が日本代表として参加しました。

愛知選手権大会は、最優秀選手賞に、男子は木村友紀（愛知陸協）、女子は4冠の山田恵理（中京大中京高校）を選考しました。会長表彰は、10名の方々を表彰し、今年から平成22年度日本陸連、高校優秀選手章、糟谷隆明（中京大中京）、中学優秀選手章、萩原加奈子（豊橋・高豊）の表彰も同時に行ないました。

愛知県高校総体では、中京大中京高校が総合得点において愛知県では初となる男女アベック優勝を達成しました。

日・韓・中ジュニア交流競技会は地元愛知県選手団として高校生22名が出場。3カ国の代表選手と交流を深めるとともに、競技では各国代表選手と対等以上の活躍をしました。台北陸協から招待のあったアジアインターシティージュニア競技会には、高校生10名が海外遠征を経験しました。

10月7日～11日の「山口国体」は、少年の部では全国高校総体入賞者をもとに高いレベルの選考となり、昨年以上の活躍が期待できます。

日本陸連は8月1日をもって公益財団法人日本陸上競技連盟に移行しました。愛知陸上競技協会の一般財団法人化は平成24年1月設立を目標に、定例の法人化準備委員会を開催し進めています。設立時の役員を選任についても、理事会や各支部で協議していく予定です。

名古屋ウィメンズマラソン2012は、これまでの国際女子マラソンに加え、一般女性ランナーがともに走ることができる女性だけのための世界初のマラソンです。定員は1万5千人で、完走者にはティファニーのペンダントが贈られます。東日本大震災から1年目となる3月11日に開催します。9月1日の申し込み初日には1万人以上の応募があり、1週間を待たず締め切られました。一方、エリートの部の申し込みは12月から開始します。大会の成功に向けて競技運営の準備を精力的に進めていきますので、競技役員、ボランティアとして多くの方々のご協力をお願いします。

支 部 報 告

名古屋支部

名古屋支部の活動報告

猛暑の夏休みに練習に励んでいる選手はもちろん、選手の強化普及に努力しておられる指導者の先生方、競技会の運営に協力していただいている審判員の皆さん、大変お疲れ様です。トラックシーズン後半に向けて、更なる向上を目指して頑張ってください。

名古屋支部からの中高生の全国大会の様子と、名古屋支部で初めて競歩の講習会を開催したことを報告します。

1 北上市で開催されたインターハイでの活躍

名古屋支部関係の成績は、男子では、以下のようでした。400mHで優勝した岡田壮平選手(名古屋)、4×100mRで7位入賞した名古屋高校チーム、4×400mRで7位入賞した名古屋大谷高校チーム、走高跳7位で入賞した槽谷選手(中京大中京)、砲丸投で7位入賞した越選手(至学館)。女子においては、800mで2位に入賞した竹内選手(中京大中京)、200mで3位、100mで8位に入賞した山田選手(中京大中京) 走幅跳で4位に入賞した布施選手(至学館)、やり投で5位に入賞した高塚選手(名城大付属)でした。惜しくも入賞はできませんでしたが、数多くの選手が参加し健闘しました。中京大中京の西垣(100m)、神野(5000m)、清水(110mH)、里地(110mH)、森(100m)、竹内(400m)、清田(1500m・3000m)、西川(1500m)、兼子(100mH)、4×100mR・4×400mR、名古屋の渡辺(100m)、河室(100m・200m)、岡田(400m)、古本(110mH)、白石(砲丸投・ハンマー投)、小出(円盤投)、日進西の黒川(800m)、瑞陵の加藤(800m)、北島(走高跳)、菅原(走幅跳)、愛工大名電の大川(1500m)、横須賀の木谷(3000mSC)、名城大付属の安藤(走高跳)、飯田(100mH)、平手(七種)、大府の八木(やり投)、愛知の横山(800m)、千種の北本(1500m)・浜本(5000mW) 至学館の家田(400mH)、旭野の原(400mH)、惟信の村上(5000mW)、明和の各務(七種)の皆さんでした。

2 奈良市で開催された全日中での活躍

男子では、200mで2位に、100mで5位入賞した村瀬選手(城山中)、4×100mRで4位入賞した東海中学チーム。女子においては、1500mで5位入賞した鷺見選手(沓掛中)。惜しくも入賞はできませんでしたが、男子では、北陵の寺島(100m)、東海の岩崎(110mH)、千種の伊藤(400m)、富士の渡邊(走り幅跳)が出場。女子では、4×100mRの千種中チーム、香流の古沢(四種競技)、香流の樋口(砲丸投)、成岩の石原(200m)、昭和橋の梶野(走高跳)の各選手が出場しました。

3 第1回名古屋支部競歩講習会報告(競歩担当 伊藤伸一)



7月28日(木)、瑞穂北陸上競技場にて名古屋支部競歩講習会兼練習会を初めて実施しました。支部としては初の試み

で、どれだけの参加者が集まるのか不安でしたが、当日参加を含めて42人(名古屋支部22人、他支部20人)と多数の参加者が集まりました。



が、最後にはどの選手も競歩らしい動きが出来るようになっていました。愛知県にはインターハイ等で活躍している競歩選手もあり、毎年名古屋支部からインターハイ等で活躍する選手を生み出す為



も、とても良い講習会兼練習会となりました。参加していただいた選手の皆さん、指導をしていただいたコーチの方々に心より感謝します。今後、第2回・3回と開催しますので、是非参加してください。又、来年度以降も継続していきますのでご協力をお願いします。

当日は、それぞれ初心者・中級者・上級者の3グループに分かれて、各コーチの指導を受けていただきました。初心者も初めは膝が曲がったり、ロボットのような歩きをししたりする選手もいました



(青木 実)

尾張支部

上半期を終えて

今年度上半期の支部事業は、第2回支部記録会(8/20、21)を大過なく実施できたことで一定の成果と反省事項、次への課題をもって何とか終了できました。ここで若干のとりまとめをしておきます。この報告に対して、大会に何らかの形でご参加をされた方々の批判や建設的なご意見など様々な声をお届けいただけると幸いに思います。

(1)第1回支部記録会…支部の全ての登録者が参加できるシーズン最初の大会ということで、競技者の秋季、冬季のトレーニングの成果を様々な角度からチェックするといった性格付けの大会です。参加状況は昨年にも増して多数の競技者の参加を得ました。本年度から県のホームページを利用しての大会要項、時間プロの掲載、リザルトのアップと新しい試みを行ない、広報という点でも少なからずの成果、影響はあったと思います。ただ、まだまだ競技運営の上で課題は多く、更なる研究・改善を要するものと考えています。

①招集時のコール漏れの問題や招集時間に対する理解が不十分なことへの指導を各団体、顧問の先生方にもお願いをしなければならないと感じています。

②写判装置の操作習熟のために春休みに当たる期間で、総合運動場とタイアップして技術面、施設設備面の理解を深める講習会を実施しました。これには当該教育委員会並びに小中高体育連盟のご理解が不可欠であり、多大なご協力、ご支援に感謝申し上げます。ただ実際の試合では何度か不具合や操作ミス等もあり、今後の課題としてしっかり取り組んでいかなければ

クラブ紹介⑰ TSM (トータル・スポーツ・マスター)

TSMは、2007年に発足し、陸上競技には2008年の秋から参加しているまだ日の浅いチームです。

TSMには名古屋市、尾張旭市、春日井市など東尾張の小中学生約190名が在籍しています。その子供たちのほとんどが様々なスポーツに取り組みながら、走る・跳ぶ・投げる等の基礎運動能力の向上を目指しています。

陸上競技はその成果を客観的に知ることができる良い機会と考え、他のスポーツと両立しながら挑戦しています。また、陸上競技会に参加することで、大会が関係者の皆さまをはじめ多くの人の協力によって運営されていることを知り、感謝の気持ちを養うことも活動の目的と考えています。さらに他地域の子供たちとの交流等により、コミュニケーション能力の向上も図っています。



常に走りを研究中

春の小学生リレー大会では約60名が参加し、「走る」「跳ぶ」「投げる」そしてリレーでの入賞者を数多く輩出することができ、まさに基礎運動能力向上を目指すTSMのプログラムと子供たちの頑張りだと感じています。

また、最後になりましたが、このような機会を与えてくださった愛知陸協の皆さま、日頃ご理解ご協力を頂いている保護者の皆さまに感謝を申し上げます。(代表 井上 克俊)

ればならないと、操作をされる審判の先生方とも確認をしております。より一層の技術面、操作面の認識・実務能力を高めていかなければならないと、責任ある立場としての自戒の念も含めて反省しております。

- (2)県選手権尾張支部予選会…この大会は4つの大会を兼ねており、時間プロの作成と種目の組み合わせに毎年苦慮する大会です。今年度も規定の時間に終了できないという事態も発生しました。写判装置の不具合等もあり、きつい時間の流れの中で一旦トラブルが発生すると、事故原因の究明・対処方法等専門技術的な対応も必要になります。メカニックやトラブル対応例などのストックがなく、ニシの有田さんにはたびたび電話を通してのアドバイスをいただくなど危ない綱渡り的な対応もあって、何度か肝を冷やすといったこともありました。ただこのようなノウハウの蓄積も後々の財産になるという考え方で、前向きに対応させていただいています。以下がそのまとめになります。

- ①時間プロと種目の組み合わせの問題
- ②写判装置等のトラブルへの迅速な対応と人材の確保
- ③ランシステムの構築に向けての第1段階のスタート

この大会はランシステムを一体化させた実験的競技運営を行ないました。本支部副理事長で、県の記録部長でもあります岡田氏と本支部の情報処理のチーム的存在の堀内先生の尽力により、静岡陸協方式の



保護者にいただいた横断幕

基礎運動能力のトレーニング項目としては、受け身や体当たりスピン、ジグザグ走、視野力、判断力、反応力、前転、後転、側転等の約50種類の項目を行ない、小中学生時代にさまざまな動きを経験することで、運動神経を形成することができる内容です。また、講習内容を凝縮したTSM運動能力記録会も開催しています。

フィールドスポーツを専門に行なっていた指導者や陸上競技を行なっている指導者合計6名で指導しています。



約50種類のメニューのひとつ

ランシステムを一部導入しました。写判、記録転送、本部記録、アナウンスへの即時送信等、情報のスピード化とスムーズな競技運営という、これまで情報の遅滞や不明瞭さなどのストレスをかなり解消できる結果となりました。この試みには静岡陸協永田競技委員長に当地までお越しいただき、懇切丁寧かつ具体的な競技運営にかかわるランシステムの運用のノウハウを教授いただきました。紙面を借りてまた機会を得て感謝の意を申し伝えたいと思います。

- (3)第2回支部記録会…小学生から一般男女まで幅広くエントリーがあり、大会の運営は時間との戦いになりました。途中雷雲の襲来で1時間の中断を余儀なくされ、また写判とスターター等の機器の不具合や連携等の確認でさらに時間を要し、予定終了時刻を大きく越えてしまう結果となりました。幸いニシの対応により素早い問題解決が図られて最小限の時間ロスに終わったのは、まさに奇跡に近いものとなりました。競技運営全般では各部署主任や担当者からのアドバイスや素早いトラブル対応をいただき、競技者の皆さんの不利益になるような大きなミスに至らなかったことに胸をなで下ろしています。ただ1日目のリレー競技は悪天候、日没と重なり写真判定のためにフィニッシュゾーンの照明点灯を行ないましたが、レーンでのバトンの受け渡し、バトンゾーンの確認など大変な状況下でのレースとなり、多くのチームの皆さんのベストパフォーマンスが発揮されたのかどうか反省・課題の多い大会と

なりました。

下半期の大会は10月最初の尾張選手権から始まります。上半期の課題を解決すべく選手の皆さんがベストの状態で開催に参加され、自己記録を更新されることを望んでいます。最後にこの上半期に、中高生諸君の全国大会への出場と活躍の報告を受けました。詳細は第24号で報告させていただきます。(原川 豪)

西三河支部

前支部長の山内満先生の定年により、新体制でスタートして6カ月が経過しました。

24年1月からの県陸協の法人化移行への動きに伴い、支部においても規約の改正など取り組まなくてはならない事柄が多くありますが、皆さんのお知恵を拝借しながら来年度のスタートに間に合わせたいと思っています。

先日終了したインターハイは、震災で大変な岩手県北上市での実施でしたので開催が心配されましたが、逆に復興を目指しての開催県の頑張りで無事成功につながったようです。支部からは、男子5名・女子8名の選手が参加しました。特にフィールド種目では風向が安定せず選手は大変苦勞したようで、うまくいけば4種目ぐらいは入賞してくれるものと期待していましたが、結果は男子800mで新橋基功君(岡崎城西)が健闘し4位入賞してくれたのみでした。その他の選手は、残念ながら目標の記録達成には至らなかったようです。ただし、今回の参加選手の中には1、2年生が多く含まれていますので、この経験を来年度に生かして来年度は輝かしい活躍をしてくれると思っています。

全日中には、男子8名・女子7名が参加し、全国小学生大会・東海選手権など多くの選手が参加し活躍した大会が続きましたので、さらにシーズン後半の活躍に期待したいと思います。

韓国での世界陸上には、現在西三河支部で最大の注目選手の、市川華菜選手(中京大)が4×100mRにエントリーされました。

また、国民体育大会にも、市川選手をはじめ多くの岡崎城西高校の関係選手(OB・現役)などが出場の予定ですので、こちらも期待したいと思います。

大震災の影響による電力不足により9月まで企業の土日出勤が実施されましたので、関係の審判員には有休を取りながら競技会に参加していただいた現状に感謝しています。(柴田 和秀)

東三河支部

記録ラッシュに沸いた上半期

昨年11月から大改修の行なわれていた豊橋市陸上競技場が、3月27日の穂の国豊橋ハーフマラソン大会でお披露目されました。再生なった目にも鮮やかなブルーのトラックを見るにつけ、今年度の大会での好記録への期待が高まりました。その期待に違わず各大会で競技者が実力を発揮し、例年になく多くの新記録が生まれました。そこで上半期に豊橋市陸上競技場で生み出された新記録をまとめてみました。

1 豊橋リレーカーニバル兼東三河記録会(4/9・10)

小学混合5年 4×100mR	生田奈緒子・米山 松山 卓暉・村田	美紅 響	豊橋陸上ク	56.99
-------------------	----------------------	---------	-------	-------

中学女子 4×100mR	白井なつ美・ノベラ 鈴木 幹奈・中野 真琴	アリス	豊橋東部中	51.44
-----------------	--------------------------	-----	-------	-------

2 県高校総体東三河予選会(4/30・5/1)

男子200m	長田 卓也	豊川	21.85
5000m	カレミ ジェレミア	〃	14.00.35
5000mW	朽名 貴輝	豊川工	22.11.10
4×100mR	田中 威史・長田 卓也 木村 祐貴・原 捷太	豊川	41.92
女子100mH	萩原加奈子	豊橋南	14.45
	白井 奈央	時習館	14.61
5000mW	高野 美穂	豊丘	32.01.76
4×100mR	河合絵梨奈・北田 夏望 萩原加奈子・鈴木沙代子	豊橋南	49.75

3 愛知県選手権兼国体東三予選会(6/4・5)

男子10000m	林 育生	TTランナース	30.56.77
円盤投	井上 将成	東三河AC	36.89

4 全日中通信東三河予選会(6/11・12)

男子共通800m	野津 亮祐	青陵	2.01.25
共通1500m	平野 誉之	石巻	4.07.11
	野津 亮祐	青陵	4.07.16
	飯島 康介	西浦	4.08.19
共通3000m	〃	〃	8.55.24
女子2年100m	中野 真琴	豊橋東部	12.34
共通200m	〃	〃	25.34
共通 4×100mR	白井なつ美・鈴木 幹奈 ノベラ アリス・中野 真琴	〃	50.63

5 東三河中学校総合体育大会(7/22)

男子共通800m	平野 誉之	石巻	2.02.49
2年1500m	飯島 康介	西浦	4.14.32
女子2年100m	中野 真琴	豊橋東部	12.36

この他の大会でも多くの新記録が出されました。また、秋の大会でも好記録が続出することを期待しています。

(兵藤 重二)

専門委員会報告

総務委員会

8月23日から26日までの4日間にわたり、名古屋市瑞穂公園陸上競技場において、第19回日・韓・中ジュニア交流競技会が日本、韓国、中国、愛知県選抜、名古屋市選抜の高校生約100名が参加して行なわれました。この大会は国際大会であり、競技成績はもちろんですが、交流や親善も目的の一つであります。参加した高校生の中に、競技の合間に国籍を越えて交流を図っていた姿が見られ印象的でした。競技レベルも高く、各国高校生の一線級が出場しており、見ごたえのあるレースが随所に展開されました。なごやかな雰囲気の中にも盛り上がりを見せ、実り多い交流競技会になりました。翌日からは東海陸上競技選手権大会が27日・28日と同じ瑞穂陸上競技場で行なわれ、各審判員の協力のおかげで特に問題なく無事終了しました。8月20日・21日にも名古屋支部の競技会が瑞穂であり、9日間連続で瑞穂陸上競技場に足を運んだ審判員もみえ、ご協力いただいた多くの愛知陸協の関係者に感謝します。

(稲垣 裕)

学校紹介⑬ 東海中学校 全国屈指の進学校が全日中4×100mリレー4位

今回は、8月に奈良で行なわれた全国中学校選手権で4×100mリレーに4位入賞した私立の東海中学校を訪問しました。中・高6年一貫教育の体制の中で東海中・高は全国屈指の進学率を誇っていますが、運動の面においても非常に優れた成績を取っています。文武両道、勉強と部活の両立がしっかりと実践されているからこそその結果なのでしょう。忙しい学習生活の中でも全国入賞を果たすためには、それ相応の理由があると思ひ、取材をしました。

学校を訪れてみて驚かされたことは、何といたっても練習環境の劣悪さです。学校訪問の打合せの際に、顧問の松本一成先生から「取材できるようなものは何もありませんよ。練習を見てもらっても、狭い範囲でちょこまか走っているだけですし」などと言われていましたが、まさかこんな悪条件の中でトレーニングしているとは思ってもみませんでした。前回訪問した光ヶ丘女子高校の比ではありません。陸上部が使うことを許されていたのは、60m程の全天候型の2レーンだけなのです。校舎と野球部のグラウンドの間の、以前は通路だったと思われるようなところに設置されており、全力で走れるのは50m程度かと思われました。しかし、全日中で入賞したり、ジュニアオリンピックで優勝(2009 Cクラス100mハードル 岩崎聖 大会新)したりと活躍を見せているのですから、そこには必ず理由があると思ひ、取材に応じてくださった松本先生、古くからの顧問でいらっしゃる長谷川興二教頭先生にじっくりとお話をうかがいました。



強さの秘密の第一は、選手の自主性を重んじているところにあると私は受け止めました。狭いスペースの有効利用
東海中学校では、練習内容についても、試合への参加についても、生徒たちが自ら考えて動いているとのことでした。練習中に顧問のお二人から指示が出ることがないなど見ておりましたが、お話をうかがってみると、練習メニューは全て生徒自身で決めているというのです。こんな形で大丈夫なのかと思ったのですが、松本先生のお話によれば、高校の先輩たちの姿やアドバイスを基に考えながらやっているのだから下手に顧問が口を出さないほうがよいのだということでした。以前は自分がメニューを与えていたけれども、今の形にしてからのほうが成果が上がっているとおっしゃっていました。確かに、高校には今年の県総体で4×100mリレーに3位入賞した人たちがいます。その中の高橋選手(2年)



高橋君を交えたスタート練習

は今年の愛知選手権100mで2位に入賞しています(東海選手権は4位)。そうした先輩たちのやってきたことを、後輩たちがアドバイスを受けながら踏襲しているのです。成果をあげてきたという裏付けがあるので、生徒たちも自信をもって練習に励んでいるのだと思われました。顧問の先生方は全く指示やアドバイスをしないわけでもないとおっしゃっていましたが、生徒の自主性に任せられる部分があればこれも一つのありようなのでしょう。

二つめに挙げられるのは、周辺の施設をうまく利用していることです。生徒の自主性という精神的な部分だけでは成果が上がるものではありません。他にも工夫があるのです。近くには千種公園、徳川園といったトレーニングにも利用できる施設があり、そこでのトレーニングを校内の狭いスペースでのトレーニングとうまく組み合わせているのです。スタートダッシュは校内の全天候型走路、長い距離の持続走は千種公園でといった具合に。そして毎週一回、水曜日に瑞穂の北競技場へ出掛けて追い込んだ練習やリレーのバトン合わせなどを行っているとのことでした。学校には生徒を運ぶためのスクールバスがあり、専属の運転手さんもいて、容易に移動ができるのです。練習の強度を弱(月曜日)——中(火曜日)——強(水曜日)というサイクルにしてあることを考えて水曜日にしてあるとのことでしたが、理にかなった設定だと言えます。それに一週間に一度ということが生徒のモチベーションを非常に高めるようで、このことが成果を上げさせているように思われました。

三つめには、最初の項目でも触れましたが、先輩がもたらす影響です。中高一貫教育の中で、中学生たちは高校に上がった先輩たちの姿を間近に見ることができますし、直接にアドバイスも受けることもできます。公立の中学校にはあり得ないと言っていいほどの利点があるのです。私が訪問した日も中学生の中に高橋君が交じって、スタートダッシュを繰り返していました。県選手権2位の動きを間近に見られるのですから、これは大きな刺激になっているはずですが、松本先生は、今年全日中で4位入賞できたのは高橋たちのアドバイスがあったからだとおっしゃっていました。毎回述べていることですが、強いチームにはやはり、その強さを生み出す秘密があるものです。

ただし、大活躍をしている東海中学校にも悩みはあるとのことでした。その一つは、入学時点での体力、運動体験の不足です。東海中学校に入学するためには、厳しい受験競争を勝ち抜かなければなりません。そのために5年生からは絶対、中には4年生から塾通いをしていて運動体験が不足しているというわけです。もちろん、体力も運動能力も高められてはいません。そうした生徒たちを選手に育て上げているのですから、大きな成果をあげていると言って何らはばかることはないとも言えるのですが、もう一つは、高校へ上がる段階で、モチベーションが今一つ上がってこないことです。中高一貫で受験がない分、中三の冬場にじっくりトレーニングが積める利点があると私は思っていたのですが、どうもそう単純にはいかないようです。練習に気が乗りにくい気候でもあり、メンバーが入れ代わらず新鮮味がないといったこともあってそうなるとうなってしまうと松本先生はおっしゃっていました。一つめの悩みは解消できそうにありませんが、二つめの悩みを解消できた時、東海中学校は更に大きな成果を示すことになると思いつつ私は学校訪問を終えました。



学校挙げての応援体制

(取材・文責・写真 大西敏司)

競技・情報処理委員会

8月24日(水)・25日(木)は、瑞穂陸上競技場で日・韓・中ジュニア交流競技会が行なわれました。瑞穂競技場では、初めての不正スタート発見装置が使用された大会となりました。フライングの内容によっては装置に反応しないものもあり、スターターの目が重要で、装置はあくまでも参考にしかならないという結果となりました。

9月にジュニア・ユース選手権の申し込みが始まり、今年も全国より多くの申し込みがありました。今回は、担当者が半年以上かけて書式を一新し、間違いがなく、申し込みやすいメール申込みの方法を開発しました。今後は県内の大会でも、徐々にメール申込みを増やしていきます。さらに申し込みがしやすい書式の開発が必要であると思います。

9月には刈谷陸上競技場で、全国ろうあ者大会が行なわれました。通常の大会にはない運営方法が求められる場面もあり、担当者の細かい配慮によって、運営を行ないました。また、その運営のノウハウが、通常の大会にもフィードバックされていくことと思います。

このように大きい大会は、当日の大会運営のみならず企画や準備にも膨大な時間がかかります。しかしそれらの経験がまた県内の大会運営にも反映され、競技者にとって競技しやすい競技会を運営することで、多くの競技者へのメリットがあると思います。今後とも競技・情報処理委員会へのご協力をよろしくお願いします。(安田 純久)

施設・用器具委員会

来年3月11日に行なわれる「名古屋ウィメンズマラソン」の新コースの本検定を7月24日に実施しました。前



自転車による計測(中日新聞社提供)

日午前中にカリブレーションコース(400mの基準コース)の設営とドーム内コースを視察して、午後から全員でコースを確認し、翌日の本検定の事前打合せと準備をしました。日本陸連からも武富女子マラソン部長と事務局本田事業部広報課長と山田局員の3名が参加して、コースを視察していただきました。当日は、日の出とともに午前4時30分から、日本陸連本部の平塚(A級)・大阪の松川(A級)・愛知の桑原(B級)・平川(C級)4名の自転車計測員で、約3時間半をかけて実施しました。愛知陸協からは、青木・岡本・黒部・田中の4名が参加し、マラソン事務局からは、桑山・木下・北野・中川・宮崎の5名の応援、支援の企業から4名のサポートがありました。日曜日にもかかわらず交通量の多い日でしたが、スムーズかつ安全に計測できました。その後計算の結果、スタート地点と折り返し地点と各5kmごとの関門の距離修正をして調整を終えました。

8月6日には、愛知陸協として、青木・岡本・黒部・桑原・篠原・花田・平川・水野・吉越の9名で、7時から17時まで約10時間かけて、各1km地点と給水ポイント・コース閉鎖地点などを、交通量の多い中無事に設定しまし

た。その後平川が、パソコンでポイント図面作成に入りました。それに基づいて、第1回大会に向けて審判委員会と連携してマニュアル作成をする段階に入りますので、よろしくご協力をお願いします。(青木 実)

審判委員会

日・韓・中ジュニア交流大会、東海選手権大会も無事終わり、平成23年度のトラック&フィールドの大きな大会は、10月の日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会を残すだけとなりました。各審判員の方々にご協力をいただき、無事進めることができました。ありがとうございます。

トラックシーズンが終ると駅伝、マラソンなどのロードレースのシーズンに入ります。3月には「なごやマラソンフェスティバル」が行なわれます。各大会には多くの審判員が必要となりますので、ご協力をお願いします。

B級公認審判資格講習会の2回目を、10月30日(日)に瑞穂公園陸上競技場にて行ないます。1人でも多くの教え子、同僚などに勧めていただき、若い力を育てていきたいと思ひます。

今年度の実技講習会は昨年に引き続き、競歩審判の講習会を行ないました。来年度以降も全国大会が続きます。今まで同様に競歩審判講習会や、新たに情報処理講習会、写真判定講習会等も計画していきたいと考えています。詳しいことが決まりましたら、競技会等でお知らせをしたいと思います。2013年度には全日本中学選手権もあり、特に小・中学校の先生方の多くの参加を望んでいます。

最後に、2点お願いをします。1つは**審判の服装**です。競技者か観客か訳の分からない服装をしている審判員をよく見かけます。特に、教師に多く見かけます。学校での指導と試合での審判との区別をきちんとつけていただきたいと思ひます。他府県からかわってこられた審判から『愛知はこんな服装でいいのですか?前の県では小さな試合から服装を整えています。そうでないと注意されます。』これは観客側から見ると「本当の審判員なのかな?」と思われ、不審を抱かれても返答が出来ません。審判と指導を区別していただきたい。もう1点は、**審判調査はがき**を必ず出すように重ねてお願いします。

審判員服装…夏季は白のカッターシャツかポロシャツ(愛知は指定のポロシャツがあります)。グレーのズボンかスカート。陸協指定の青のキャップ型帽子。黒の靴(女性の靴でかかとの高い物はだめです)。胸に胸章を付ける。

(榊原 茂)

選手強化委員会

山口国体の選手選考について

平成23年度山口国体陸上競技は、10月7日(金)~11日(火)の競技日程で山口県維新百年記念公園陸上競技場にて開催されます。愛知県代表選手団は7月17日、8月10日の強化委員会で原案を作成し、8月11日の理事会で承認されました。(表参照)

国体選手決定の経緯は以下の通りです。

- 1 成年選手→日本選手権入賞選手から決定(リレー枠を除く)
- 2 教員枠選手→中部実業団選手権、東海・県選手権優勝

者である木村友紀先生（春日井中部中学教）を推薦（走幅跳）

- 3 リレー競技→男女リレーチーム編成の承認とリレー枠選手の推薦
- 4 少年A、共通→北上インターハイ入賞選手から決定
- 5 少年B→インターハイ出場選手、全国上位ランキング選手、千葉県の実績から決定
- 6 その他→ブロック主任から推薦された選手から、入賞の可能性のある選手順に決定。

県の強化事業に参加している選手を優先しての選考。支部強化委員長、加盟団体から推薦された選手の検討と意見集約。

今年はインターハイで県勢の活躍が目立ち、入賞者から選手枠が順に埋まった関係で、それ以外からの選考が厳しいものとなりました。成年選手に関しても日本選手権入賞以外の選考（リレー枠を除く）は飯田選手（チームミズノ）だけでした。飯田選手に関しては、県選手権で内藤選手（ミズノ）に勝ったことが選考の決定要因でしたが、県選抜合宿や練習会には全て参加して、ジュニア選手の指導的立場であったことが評価されました。愛知の選手として国体出場を望み、なおかつ入賞の可能性のある選手が国体チーム員の前提条件ですが、飯田選手は他の成年選手の模範となっていました。そして、飯田選手は男子主将にも任命されました。

国体における教員枠選手は今年が最後になります。各県の教員採用の一端を担ってきたこの制度ですが、採用枠の減少により、本来の意義から程遠い状態での実施現状から、今年が最後になりました。その最後の年に選考されたのが新任の木村友紀先生（春日井中部中学教）です。全国的な活躍はこれまでなかったのですが、今シーズンは絶好調で、中部実業団、県選手権を制して選考されました。東海選手権においても7m66をマークして優勝し、有力な入賞候補選手になりました。

女子成年選手の選考は僅か3名のみになりました。しかし、その中には日本を代表する女子スプリンターに成長した、市川華菜選手（中京大学）が女子主将として出場します。昨年までとは違う、注目度の高い人気選手としてチーム愛知に貢献してくれるでしょう。

インターハイの県別順位は男子が2位、女子が7位でした。北東北での活躍を再現してくれれば、近年の不本意な成績から脱却してくれることと期待できます。

これらの選手の愛知代表になるまでの成長は、多くの関係者の指導の賜物であることを選手、コーチ共々認識して競技してきますので、ご支援、ご声援よろしくお願ひします。

平成23年度 第66回山口国体陸上競技選手団一覧表

No.	種別	種目等	氏名	所属
1	団長	強化委員長	北村 肇	中京大中京高
2	監督	強化副委員長	森谷 晴彦	名古屋高
3		短距離コーチ(兼)	明星 光信	豊田高
4	コーチ	中長距離コーチ	渡邊 正昭	豊川工高
5		障害コーチ	鈴木 潔	八幡中
6		競歩コーチ	斉藤 喜夫	名鉄
7		跳躍コーチ	寺島 貴	三好高
8		跳躍コーチ(棒高跳)	夏目 裕暢	岡崎城西高
9		投擲コーチ	山本 雅司	豊田大谷高
10	女性部会強化担当	佐藤 悦子	時習館高	
11	マネージャー	総務	伊藤 明久	愛知商高

種別	種目	選手名	所属
マネージャー	総務	小林 論	富田高
		小田垣充雅	名女大高
トレーナー		井上 直生	T.S.S.T.T
		早川 舞	T.S.S.T.T
成年男子	100m・400mR	服部 辰也	中京大
	400mR	屋貝 博文	中京大
	400m・(400mR)	中野 弘幸	愛知教育大
	110mH・(400mR)	飯田 将之	チームミズノ
	400mH	中村 明彦	中京大
	棒高跳	山本 聖途	中京大
	走幅跳	木村 友紀	春日井中部中 教員
	100m・400mR	市川 華菜	中京大
成年女子	400mR・400m	齊藤 結	中京大
	10000mW	占部 磨美	三菱自動車岡崎
少年男子A	100m・400mR	西垣 佳哉	中京大中京高
	5000m	小山 裕太	豊川工高
	400mH・400m・(400mR)	岡田 壮平	名古屋高
	走幅跳	鈴木 舜也	成章高
	円盤投	越 寛将	至学館高
	ハンマー投	墨 訓熙	起工高
	800m	新橋 基功	岡崎城西高
	5000mW	杏名 貴輝	豊川工高
少年男子共通	走高跳	槽谷 隆明	中京大中京高
	棒高跳	榎 将太	岡崎城西高
	100m・400mR	山田 恵里	中京大中京高
少年女子A	3000m	清田 真央	中京大中京高
	走幅跳・(400mR)	布施 和花	至学館高
少年女子共通	800m・400m・(400mR)	竹内麻里子	中京大中京高
	やり投	高塚 裕子	名城大附高
少年男子B	100m・400mR	掛川 真	名古屋高
	110mJH・(400mR)	古元 翼	名古屋高
少年女子B	100mYH・400mR	萩原加奈子	豊橋南高
	走幅跳・(400mR)	石原 薫子	岡崎城西高

※竹内麻里子の400mは、少年女子Aの種目

【選手内訳】

	男	女	計
成年	7	3	10
少年A	6	3	9
少年共通	4	2	6
少年B	2	2	4
計	19	10	29

	男	女	計
短距離	5	3	8
中長距離	2	2	4
障害	4	1	5
競歩	1	1	2
跳躍	5	2	7
投擲	2	1	3
計	19	10	29

(北村 肇)

記録委員会

1月3日の新春ロード・競歩競技会から1年がスタートして道路競技からトラック&フィールド競技に入り、今年は未曾有の東日本大震災の影響から現コースとしては最後となった名古屋国際女子マラソンがやむなく中止となりました。以降、予定した競技会の一部豪雨による途中中止の競技会もあったが、ほぼ予定通り盛会のうちに終了しています。8月には第33回東海中学校総合体育大会（瑞穂）、第19回日・韓・中ジュニア交流競技会（瑞穂）、第45回東海選手権（瑞穂）も盛会のうちに終え、8月末までに県内では80に迫る競技会が開催され記録委員会から日本陸連へ記録公認の申請をしています。大学関係の競技会については東海学連が日本学生連合を通して申請しています。競技会の多くは、各支部の競技会です。各支部の記録委員長を中心にして各競技会の記録担当委員の協力により報告をいただき、申請期間に遅れることなく問題もなく記録申請をしています。

記録委員会の8月の業務は、1月から7月までに公認申請を終了した競技会の記録を整理したランキング用の再

チェック、「県外出場報告書」による記録証の依頼、HP等からのチェックと入力済みランキング用をプリントし各競技会のリザルトとの照合です。約10日かけ入力漏れ、訂正等をチェックし、年末のランキング表作成の大事な事前準備でもあります。

トラック&フィールド競技も9月に入ると、10月のジュニアオリンピックを目指す競技会、来年の全国大会を目標にする新人大会、日本ジュニア・ユース選手権、各支部選手権大会等を中心にした次年の目標を見つける時期に入りました。故障もなく自己記録の更新を期待しています。

◎広報第22号以降、確認した県新記録等
愛知新記録

- 男子 100km 7.18.59 甲斐 実 (名古屋市役所走友会)
第26回サロマ湖100kmウルトラマラソン (北見)
6月26日
- 女子 100m 11.52 (+1.7) 市川華菜 (中京大)
第77回東海学生陸上競技対校選手権大会 (瑞穂)
5月14日
- 100m 11.55 (+0.6) 市川華菜 (中京大)
第95回日本陸上競技選手権大会 (熊谷) 6月10日
- 200m 23.62 (-0.7) 市川華菜 (中京大)
第95回日本陸上競技選手権 (熊谷) 6月12日

愛知高校新記録

- 男子 4×100mR 40.41 名古屋
(掛川 真・河室裕貴・掛村将之・渡辺将志)

- 第71回愛知陸上競技選手権大会 (瑞穂) 7月2日
ハンマー投 62.33 墨 訓熙 (起工)
平成23年度知多・尾張支部高校ジュニア記録会
7月24日
ハンマー投 62.72 墨 訓熙 (起工)

- 第64回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 (北上)
8月3日
女子 800m 2.06.21 竹内麻里子 (中京大中京)
- 第64回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 (北上)
8月6日
やり投 48.08 高塚裕子 (名城大付属)

- 第58回東海高等学校総合体育大会陸上競技大会 (小笠山)
6月19日
やり投 47.94 高塚裕子 (名城大付属)

- 第71回愛知陸上競技選手権大会 (瑞穂) 7月16日
やり投 47.64 高塚裕子 (名城大付属)
- 第64回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 (北上)
8月3日
やり投 47.90 高塚裕子 (名城大付属)
- 第54回東海陸上競技選手権大会 (瑞穂) 8月28日

愛知高校タイ記録

- 女子 100mYH 14.36 (-1.5) 萩原加奈子 (豊橋南)
- 第66回国民体育大会選手選考競技会 (瑞穂) 7月3日

愛知中学新記録

- 男子 800m 1.56.81 野津亮祐 (青陵)
- 第57回全日本中学校通信陸上競技大会・愛知大会 (瑞穂)

ホープレッスン⑬

掛川 真選手 (名古屋高校 1年)



名高流 W・UP

掛川 真君は小学校時より全国大会などで活躍し、中学に入学してからもジュニアオリンピックなど中学1年生からめざましい成長を遂げた。中学3年時には全国中学校総体鳥取大会において100m、200m共に第3位という実績を引っ提げ、名古屋高校陸上競技部の一員として入学してくれた。

陸上競技に対しての情熱は非常に高く、毎回、保護者、部員が撮ってくれる試合VTRを熱心にチェックし、自己研鑽を怠らない。また、高校入学合格通知を受け取って早い時期より名古屋高校陸上競技部の練習に参加し、部に溶け込むのも早かった。シーズンインと共に名古屋高校の400mR不動の第1走者として活躍し、立て続けに県高校記録、東海高校記録を更新した。注目されて臨んだ全国インターハイにおいてはチームとしてのアクシデントがあったにもかかわらず、彼は何ら動揺することなく、予選から1年生とは思えない、堂々とした走り振りで第7位入賞の原動力となった。

練習においては妥協を許さず、身体的な違和感や技術面で感覚的に腑に落ちないところがあると、自分のことば、表現で遠慮なくこちらに伝えてくる。そのため、身体的管理や技術的修正が的確にすばいタイミングで対応できる。

これから、後半シーズンに向け10月に行われる「山口国体」の男子少年B 100mの愛知県代表選手としての活躍が期待されている。昨年もピンチヒッターとしてこのカテゴリーの種目に参加しており、その経験を生かし愛知県の得点獲得に貢献してもらいたいものだ。

まだ、スタートを含め技術的な面でいくつか修正しなければいけない所があり、じっくり本人と確認しながらやっていくつもりである。その修正にあたって、本人の特徴はどこにあるのか、ルーツをさぐる手がかりが彼にはたくさんある。それは、幼いころよりご両親が撮影した彼の走る姿が、いわゆる「You Tube」に配信されているのだ。これらを1個1個順次見ていくと、彼の走りの個性がはっきり分かる。これらを参考にしながら、身体的特性を考慮して、高校においても全国的に活躍できる選手として育てていきたい。



夏合宿練習

(森谷 晴彦)

7月18日

女子 棒高跳 3.00 佐藤 愛 (千種)

第71回愛知陸上競技選手権大会名古屋支部予選会 (瑞穂)

6月4日

棒高跳 3.00 佐藤 愛 (千種)

第71回愛知陸上競技選手権大会 (瑞穂) 7月17日

四種競技 2615点 早瀬名那 (長良)

(15.51 (+1.7) - 1.45 - 11.97 - 28.20 (-1.2))

第32回愛知混成競技大会名古屋支部予選会 (半田)

5月21日

(岡田 武彦)

女性委員会

7月2日(土)・3日(日)に第8回愛知レディース陸上競技大会を開催しました。参加者は、約900名(内訳 中学8種目で491名、一般高校14種目で363名、共通種目で棒高跳4名、リレー42チーム)にのぼり、過密なタイムテーブルになりました。大会2日間をとおしてグラウンドコンディションに恵まれ、10種目で20個の大会新記録と、3種目で4個の大会タイ記録が生まれました。本大会は、スペシャル表彰プレゼンターとして走高跳の現日本記録保持者である今井美希さんをお招きして、表彰のみならず技術面でのアドバイス、サインや握手や写真撮影等をしていただきました。これにより選手の皆さんは大変刺激を受け、今後の励みになったのではないかと思います。また運営側としては、愛知レディース陸上競技大会が普及事業としての役割を一段と高めることが出来たのではないかと考えます。ご

多忙の中出席を賜りました今井美希さんと、優勝者へ贈呈するお花をご提供くださったミルキーウェイ(中区栄)さんに心より御礼申し上げます。



報道等でご承知のように、来年3月11日(日)「なごやウィメンズマラソン」を開催します。現在、大会実行委員会で着々と準備が行なわれており、その指示で愛知陸協の実行委員会も動いております。近年、大マラソンは他県においても色々と企画開催されておりますが、それぞれ主動となる組織が違う上に規模や道路事情等も違い、参考になるノウハウはそんなに多くありません。まさに手探り状態の中、緻密な準備作業が進められています。現在苦慮している点は、圧倒的に女性スタッフの数が足りないということです。15000名の参加者がすべて女性という史上初の本大会において、スタッフとして関わる私たち女性の役割は非常に大きく重要になると考えます。そこで女性委員会として強くお願いをしたいのは、「参加者以外の女性の方は、審判あるいはボランティアで是非大会にご協力をいただきたい」ということです。大会を盛り上げ成功させるために重ねて女性の皆さんのご協力をお願いします。

(脇田 千鶴)

関係団体報告

小学生友の会

第28回 愛知県小学生リレー競走大会 6月26日(日) 瑞穂陸上競技場
大会新記録 女子 走幅跳 4.88 吉村月乃 東浦 AC
“日清食品カップ” 第27回全国小学生陸上競技交流大会

8月27日(土) 神奈川県・日産スタジアム



日清カップ 愛知県選手団

5年男子 100m 13.66 土岐和也 作野 AC 6位
6年男子 100m 12.15 大原康平 なごや陸上クラブ 1位
男子 走高跳 1.40 福井貫汰 TSM 8位
男子 走幅跳 4.83 黒野敬斗 いっしき陸上クラブ 8位
男子 4×100mR 51.43 豊橋陸上クラブ 3位
(高橋舞羽・筒井幹太・外山零・杉山尚規)
5年女子 100m 13.85 米重美紅 豊橋陸上クラブ 1位
6年女子 100m 13.40 長谷川愛樹 なごや陸上クラブ 5位
女子 走高跳 1.30 永田佳子 豊橋陸上クラブ 7位
女子 走幅跳 4.84 吉村月乃 東浦 AC 4位
女子 4×100mR 52.72 安城ジュニア陸上クラブ 3位
(鳥居夏帆・川端真奈・森みくる・野村梨紗)
友好女子 100m 14.18 片山栗里

安城ジュニア陸上クラブ 1位

第28回 東海小学生リレー競走大会 8月28日(日) 瑞穂陸上競技場
男子 4×100mR 51.92 安城ジュニア陸上クラブ 1位
54.21 田原陸上クラブ 6位
女子 4×100mR 55.94 豊橋陸上クラブ 5位
55.99 田原陸上クラブ 6位
56.91 なごや陸上クラブ 8位
5年混合 4×100mR 55.34 安城ジュニア陸上クラブ 1位
56.65 豊橋陸上クラブ 3位
安藤百福記念章受賞 鈴木雅也 田原陸上クラブ

(大矢 新吾)

中小体連

全国中学総体奈良大会を終えて

8/20(土)～22(月)の3日間、奈良県の鴻ノ池陸上競技場にて、第38回全日本中学校陸上競技選手権大会が開催されました。本県より、延べ54名の選手が参加しました。一昨年は69名、昨年は66名の選手が参加したことを考えると、やや参加人数が減少してしまいました。本年度から参加標準記録が10種目において大きく引き上げられたことが影響したように思われます。初日から雨が降ったりやんだりとした難しいコンディションの中、白熱した競技が繰り広げられました。

印象に残った選手を紹介します。100mで5位、200mで2位の成績を取った村瀬翔太選手(城山)は、この大会を通じ、1レースごとに大きく成長していったように思い

名岐駅伝いまむかし⑭

第20回大会(昭和29年) — 「一部」29チーム・「二部」51チーム参加 —

一部：東洋ベア桑名(三重)初優勝 二部：中京商三連覇

当初、1月31日に90チーム参加の下で行なわれる大会であったが、当地方を18年ぶりに襲った大雪で前日の30日8時15分には川崎岐阜製作所の約2000坪の屋根が落下してバス20台が破壊されたり、北設楽地区では80センチの積雪、さらに名古屋市内でもかなりの降雪があり、市電がレール凍結防止のため終夜運転を行なうなど、大会は急遽中止された。大会直前の新聞にはレースの予想が掲載(29日第一部、30日第二部)されるなど、そこには中止を窺わせるような記事は見当たらないが、多分、参加チームにはラジオのニュースや電話等で中止が周知されたものと推測される。

しかし、大会は2月28日に延期して実施され、1/31参加予定チームのほか新たな申込みもあったが、棄権したチームもあり最終的には80チームが参加した。

第一部：1区で安城クに首位を譲ったものの、最長区間の2区でトップに出た東洋ベア(上仲、竜野、松瀬、藪田、岡南、高橋、石川、住田)が、3区で豊橋青に逆転されたものの、4区で再び首位を奪取し、そのまま追いつける大日本紡織A、豊橋青、恵那走友、稲津青、安城ク等を振り切って4.21.45でゴール、苦節5年念願の大会初制覇を果たす。三重県勢としては第7回(昭和12年)大会の「笹川ク」以来の久しぶりの優勝となった。

第二部：1区で小牧の吉田が第一部1位の区間記録より4秒速い力走でトップに立つ。連覇の呼び声の高かった中京商(堀尾、牧田、鈴木、小島、藤田、安藤、杉浦、稲垣)は6位と出遅れたが、2区の牧田が区間記録1位の快走で首位を奪取し、優勝候補の一角である岐阜・東濃に2分近い差をつけて棒を渡す。次走者以降も4区を除いて各走者が区間1位の記録で力走し、2位に8分近い大差をつけて、4.24.18で三連覇を遂げる。

2位以下の結果は次のようである(4位以下は愛知県関係分のみ掲載、以下、同じ)。

なお、3/1の中日新聞(朝)には、大会の成績が掲載されているが、レース参加の有無に関係なく、一部21位以下と二部31位以下は順位とチーム名が記載されていないので、参考に最終申込みをしたチーム名をゼッケン番号順に記す。

一部：②大日本紡 4.23.35 ③豊橋青 4.29.30 ⑥安城ク ⑦渥美ク ⑧明治飲料 ⑨愛知県庁 ⑩名走友 ⑫西尾甚六 ⑬新三菱 ⑮古知野体協 ⑯豊田自紡織 ⑰新中央発条 ⑱東洋レ ⑳一宮走友(以下、順位不詳)住友金属、全幡豆走友、東海銀行、名走友A、新川青、谷木産業、知多ク

二部：②東濃 4.32.17 ③大垣工 4.36.0 ④西尾実 ⑤尾北 ⑦大同工 ⑧昭和 ⑨南山 ⑩大府 ⑪犬山 ⑫成章 ⑬瀬戸窯 ⑭新城農林 ⑮瀬戸 ⑯小牧 ⑰半田農 ⑱西陵 ⑳桜台 ㉑瑞陵 ㉒東邦 ㉓名古屋西 ㉔名電気A ㉕一宮商 ㉖起工(以下、順位不詳)名市工業 一宮 鳳来寺 新城 津島 松陰 津島商工 半田 愛知 渥美農 名市工芸 安城農林 滝実 刈谷工 名電気B 名城付属 東邦 福江 県岡崎 名古屋工

また、20回大会を記念して、下記の連続出場者が表彰された。

「20回出場者」柴垣利明(古知野体協) 「10回以上出場者」野村秀吉、近藤宗太郎、今井清市、古橋幸一(以上、名走友)、伊藤寛輔(一宮走友)

第21回大会(昭和30年) — 「一部」25チーム・「二部」52チーム参加 —

一部：東洋ベア桑名二連勝 二部：中京商四連勝



A:「熱狂的なファンに囲まれてゴールする住田選手」

本大会から全コースが舗装されたこともあって熱戦が展開され、沿道の駅伝ファンを熱狂させた。また、NHKとCBCの報道合戦も新たな話題となったが、CBCラジオでは翌日(1/31)の午後5:30の「スポーツ・アルバム」で「名岐駅伝」の番組が放送された。

一部：前回念願の初優勝を飾った東洋ベア(松瀬、藪田、高橋、岡南、上仲、舟田、石川、住田)は、1区で5位と出遅れたものの、2・3区では創部2年目の中央発条を追走して2位をキープし、4区で岡南が区間1位の好走を見せてトップに立ち、4.18.55で大会記録を更新して連覇を果たす(写真A)。

二部：1区では、一部の区間1位の記録を上回る好走をみせた小牧(吉田)が前回大会同様首位に立ったが、2～6区では地力のある豊橋工が首位をキープしそのまま初優勝が期待された。しかし、7区で中京商の牧田が前回大会の2区でごぼう抜き快走をみせて同校三連覇の原動力となったように、今回も豊橋工の走者に5分余も速い区間1位の記録で首位を奪取。アンカー堀尾も区間1位の記録で追いつがる豊橋工と互角の区間2位の記録を出して、中京商(安藤、杉浦、稲垣、小島、藤田、森本、牧田、堀尾)が4.23.21で一部同様大会記録を更新して四連覇を果たしたが(写真B)、これにはオリンピック選手であった斎監督の好指導に負うところも大であろう。

なお、総合記録では一部が二部を上回っているが、各区分1位記録を比較すると4勝4敗の互角であり、高校生の健闘が光った。

2位以下の結果は次のようである。

一部：②中央発条 4.21.18 ③日紡大垣 4.22.28 ④豊橋青 ⑤愛知県庁 ⑦一宮走友 ⑧中京短大 ⑨八楽青 ⑩新三菱A ⑪安城ク ⑫東洋レ ⑬瀬戸ク ⑭明治飲料 ⑮江南体協 ⑯三菱電 ⑰愛知学大 ⑱新三菱B ⑲東海銀 ⑳名走友ク ㉑常滑体協

二部：②豊橋工 4.28.25 ⑤東邦 ⑥西尾実 ⑦昭和 ⑨半田農 ⑩犬山 ⑪瀬戸窯 ⑫新城 ⑬大同工 ⑭成章 ⑯大府 ⑰津島商工 ⑱刈谷 ⑲桜台 ㉑一宮商 ㉒明和 ㉓安城農林 ㉔南山 ㉕瀬戸 ㉖山口 ㉗小牧 ㉘愛知商 ㉙尾北 ㉚愛知工 ㉛滝実 ㉜刈谷商家 ㉝愛知 ㉞名電気 ㉟起工 ㊱名城付属 ㊲鳳来寺 ㊳瑞陵 ㊴名市工 ㊵松陰 ㊶津島 ㊷半田 ㊸名工業 ㊹一宮



B:「本社前に四連覇のゴールをする堀尾選手」
<中日新聞(夕)30.1.30>

(注) 恵那走友Bは途中棄権。旭丘は区間走者の規定違反で失格、関一高は途中棄権

(西垣 完彦)

ます。チーム愛知を牽引するに相応しい強さと存在感を放ちつつ、愛知の控えベンチから招集所に行く時、必ず周りに「ってきます」と一声かけるその謙虚な姿勢に感心しました。800mの野津亮祐選手（青陵）は、準決勝をトップタイム（県中学新記録）で通過し、俄然優勝に期待がかけられました。決勝レースでも1周目57秒のラップで先頭通過し、途中までかなり頑張りましたが、惜しくも4位。しかし、レース後の彼の清々しい表情は、見ていて気持ちのいいものでした。伊藤南侑選手（梅坪台）は、200mで本人も驚きの4位。昨年のジュニアオリンピックでの悔しさをぶつけたとのことでしたが、本当に見事な走りっぷりを見せてくれました。ここでは、紹介しきれない分も含め、愛知の中学生は奈良の地で活躍してくれました。

入賞数は、男子で6、女子で3ということで、例年に比べ減少してしまいました。三日間の観戦を振り返り、この原因を探ってみると、全国で結果を残すためには、愛知の選手は体力的にも精神的にもタフさが足りないように感じます。出場することで精一杯で、全国大会という場での勝負までには至っていないケースが多いように感じます。中学生なので、「参加することに意義がある」のも分かります。それはそれでとても大事なことです。ただ、他県はもっと貪欲に強化し、タフな選手を数多く輩出しています。ここ数年、好結果を残してきた愛知ですが、これからはもっと上位入賞を意識して獲りにいく全中にシフトしていく時期なのかもしれません。2年後に愛知で全中を開催する側として、大会の運営はもちろんです。競技で好結果を残し、チーム愛知が盛り上がるように選手を強化していく必要性を強く感じた奈良全中でした。

第38回全日本中学校陸上競技選手権大会（奈良大会）愛知県選手団結果一覧（男子）

○数字は順位を示す

氏名	学年	所属	種目	予選	準決勝	決勝
秋江 洋志	3	萩原	100m	11.16	11.15	—
黒木 省悟	3	矢作	100m	11.33	—	—
村瀬 翔太	3	城山	100m	11.09	10.97	⑤ 10.94
			200m	22.30	22.01	② 21.99
寺島 航汰	3	北陵	100m	11.40	—	—
遠藤 侑汰	3	篠目	200m	22.95	—	—
佐藤 礼基	3	末野原	200m	23.35	—	—
伊藤 友明	3	千種	400m	51.63	—	—
野津 亮祐	3	青陵	800m	1.59.16	1.56.14 NPR	④ 1.57.23
			1500m	4.09.25	—	—
兼子 拓巳	3	安城南	800m	2.00.81	—	—
宮田 暁生	3	宮田	800m	2.02.99	—	—
平野 誉之	3	石巻	1500m	4.18.04	—	—
			3000m	9.08.09	—	—
飯島 康介	2	西浦	3000m	9.02.81	—	—
服部 晟也	3	吉良	3000m	9.11.35	—	—
岩崎 聖	3	東海	110mH	14.47	14.59	—
萩野 雅斗	3	東海	4×100mR	44.37	44.04	④ 43.66
野田 隆						
古澤 正崇						
中村 隼大						
加藤 晃人	3					
宮 功亨	3					
水谷 來	3	朝日丘	走高跳	1.87	—	NM
近藤 雅哉	3	美川	走高跳	1.87	—	NM
坂本 達哉	3	奥	走高跳	NM	—	—
中島 恭佑	3	西尾東部	走高跳	NM	—	—
渡邊圭一郎	3	富士	走幅跳	6.47	—	—
伊藤 裕也	3	豊川東部	走幅跳	6.71	—	④ 6.72
永尾 直哉	3	岩津	走幅跳	6.65	—	⑤ 6.69

(女子) ○数字は順位を示す

氏名	学年	所属	種目	予選	準決勝	決勝	
中野 真琴	2	豊橋東部	100m	12.42	12.48	—	
			200m	25.48	25.64	—	
伊藤 南侑	3	梅坪台	100m	12.50	12.39	—	
			200m	25.22	25.20	④ 25.33	
村越優里奈	3	六ツ美北	100m	12.73	—	—	
河合 詩菜	3	安祥	200m	25.88	—	—	
石原 果奈	3	成岩	200m	26.23	—	—	
鷺見 梓沙	3	杏掛	1500m	4.33.22	—	⑤ 4.28.74	
山田日菜野	3	みよし北	1500m	DNS	—	—	
渡邊友紀子	3	武豊	100mH	14.83	14.89	—	
毛利 梨華	3	千種	4×100mR	50.51	50.55	—	
橋詰 奈々	3						
山岡みなみ	3						
菱山 綺更	3						
野々垣 光	3						
水野 瑛梨	2						
梶野 香子	2	昭和橋	走高跳	NM	—	—	
松井 紗希	3	鶴城	走高跳	1.60	—	④ 1.63	
稲垣 碧	3	岡崎福岡	走高跳	NM	—	—	
大和田ゆうか	3	代田	走高跳	NM	—	—	
水野 彩菜	3	前林	走高跳	NM	—	—	
中村 彩花	3	吉田方	砲丸投	12.92	—	—	
樋口菜々日	3	香流	砲丸投	11.71	—	—	
古澤 彩果	3	香流	四種競技	100mH	15.37	走高跳	
				793	502	200m	
				砲丸投	9.06	27.40	得点
				468	679	2442点	

(久米 裕朗)

高体連

全国高校総体結果報告

8月3日（水）～7日（日）までの5日間、岩手県北上市の北上総合運動公園陸上競技場において、第64回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が開催されました。

ご承知のとおり、3月11日の大震災で甚大な被害を受けた岩手県で、しかも、震災からわずか5ヶ月足らずで本当に全国大会が開催できるのかという声を多くいただきました。幸い北上市は内陸部にあり、連日報道される沿岸部のような被害は免れ、競技場のトラックに少し溜みができたりスタンドに少し亀裂が入ったりした程度で、4月の終わりに岩手県知事のゴーサインを受け直ちに改修工事が行なわれ、5月の末には無事県大会も行なわれました。

ただ、そうは言っても競技役員や補助員の中には、家族や親戚また友人等で、不幸に会われた方もいる中で、悲しみを見せることなく競技運営に一生懸命取り組んでいる姿に感銘を受けました。中でも、競技場周辺やサブグラウンドの周りのゴミを黙々と集めている補助員や、朝早くから競技終了（連日7：30頃）までずっと駐車場に車を誘導をしている補助員には本当に頭が下がる思いでした。

そういった人たちの協力の下、幸い天候には恵まれ、競技は順調に進行しました。連日35度を越える名古屋からははるばる岩手に入った我々には、初日は27度と比較的すごしやすかったのですが、だんだん暑くなり、とうとう4日目には35度と、なんら名古屋と変わらない気温の中で競技が続けられました。

そんな中で、115名の大人数で乗り込んだ愛知県選手は今年もよく頑張り、男女合わせて優勝2種目を含む、延べ22種目で入賞しました（昨年は15種目）。

優勝種目は、男子400mハードルで名古屋の岡田壮平選



マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2012について

マラソンフェスティバル実行委員会事務局長 國分 一郎

- 種目は①名古屋ウィメンズマラソンエリートの部、②名古屋ウィメンズマラソン一般の部、③名古屋シティマラソン男女ハーフマラソンの部④名古屋シティマラソン男女10kmの部⑤名古屋シティマラソンファミリージョギングの部があります。
- 日時ですが、①エリートの部は3月11日(日)午前9時10分にスタートいたします。②一般の部、も同じく3月11日(日)午前9時10分にスタートです。③男女ハーフマラソンの部のスタートは3月11日(日)午前10時10分にスタートです。④男女10kmの部も同じ3月11日(日)午前10時10分にスタートです。⑤ファミリージョギングの部は3月10日(土)10時から順次スタートしていきます。
- コースは①エリートの部と②一般の部、が名古屋ドーム前→萱場→古出来町→新瑞橋→堀田→新瑞橋→内山町→桜通日銀前→伏見通り若宮北→栄五→千代田→伏見通り若宮南→三の丸一丁目→市役所→城見通二丁目→康生通二丁目→城見通二丁目→市役所→三の丸一丁目→桜通日銀前→内山町→古出来町→萱場→名古屋ドームです。③男女ハーフマラソンの部が上記の名古屋ドーム前→伏見通り若宮北です。④男女10kmが名古屋ドーム前→萱場→古出来町→新瑞橋→弥富通三丁目→山下通→瑞穂陸上競技場です。⑤ファミリージョギングの部がナゴヤドーム敷地内特設コースです。
- 参加者数(募集人数)は①エリートの部と②一般の部合わせて15,000人。③男女ハーフマラソンの部が10,000人。④男女10kmが5,000人。⑤ファミリージョギングの部が6,000人です。
- 制限時間は②一般の部が号砲を基準として7時間01分。③男女ハーフマラソンの部が号砲を基準とし3時間。④男女10kmが号砲を基準として1時間40分。⑤ファミリージョギングの部が1周1kmのコース4周4kmを目標に45分以内で周回できることです。
- 参加料は①エリートの部が5,000円。②一般の部が個人国内が10,000円。個人海外が12,000円。グループ(7人まで)1グループ10万円。個人チャリティーが15,000円。③男女ハーフマラソンの部が個人国内5,000円。個人海外6,000円。④名古屋シティマラソン10kmの部が個人国内3,000円。個人海外4,000円。⑤ファミリージョギングの部が個人大人1,500円。個人小人1,000円。グループ親子エントリーが3,000円。グループファミリーエントリーが5,000円です。
- 別途事務手数料は②一般の部に参加の個人の場合別途500円が必要に、グループの場合3500円が必要になります。③男女ハーフマラソンの部と④10kmの部と⑤ファミリージョギングの部の申し込みの場合も個人又はグループにつき500円必要となります。
- 参加資格は①エリートの部が次の(1)(2)を満たす女性競技者(1)2011年日本陸上競技連盟登録競技者で大会当日満19歳以上の競技者。(2)2010年3月以降に公認競技会で、マラソン3時間15分以内、30km2時間13分以内、ハーフマラソン1時間30分以内、10km・10.000m38分以内。(2)一般の部が大会当日19歳以上の女性で、マラソンを6時間40分以内に完走できる女性。③男女ハーフマラソンの部が、高校生を除く満18歳以上で、2時間40分以内に完走できる男女。④男女10kmの部が中学生以上で1時間20分以内に完走できる男女。⑤ファミリージョギングの部では小学生以下参加の場合満15歳以上同伴者が必要です。
- 参加申込は①エリートの部は(1)期日・2012年2月1日(水)必着。(2)方法・別紙申込書に必要事項を記入の上都道府県陸上競技協会の承認を受け記録証又は陸上競技マガジンの記載部分の複写をそえ現金書留で中日新聞スポーツ事業部内名古屋ウィメンズマラソン事務局エリート担当へ。②一般の部【個人】はインターネット又は専用振替用紙で申し込む。専用振替用紙の必要な方は(1)希望部数(2)送付先住所・氏名を明記した返信用封筒(角2型)(3)返信用切手を同封のうえ、マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知エントリーセンター(電話0570-008522)まで請求してください。【グループ、チャリティー】はインターネットで申し込んでください。専用振替用紙による申し込みはありません。③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部及び⑤ファミリージョギングの部は②名古屋ウィメンズマラソン一般の部と同じです。
- 表彰・①②のマラソン全体(エントリー+一般)で第1位から第8位までの入賞者と最優秀新人を表彰。③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部では総合1位から8位を表彰。年代別(10歳刻み)1位から3位を表彰。※総合は号砲からの計測記録(グロスタイム)、年代別はスタートライン通過時刻から計測記録(ネットタイム)で表彰します。※年代別表彰は総合入賞者を除きます。⑤ファミリージョギングの部は表彰はありません。
- 募集期間はエリートの部は12月から2012年2月1日。②一般の部【個人】は2011年9月1日から11月30日まで。【グループ】は2011年9月1日から10月20日まで。※応募は先着順とし定員になり次第締め切りです。③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部及び⑤ファミリージョギングの部は2011年9月15日から10月15日までです。定員を超えた場合は抽選を行います。11月末日までに抽選結果を通知します。当選者は指定期日までに指定口座に参加料を入金してください。
- 選手村は①名古屋ウィメンズマラソンエリート部の場合に名古屋観光ホテル【〒460-8608名古屋市中区錦一丁目19番30号、TEL(052)231-7711】に設けられます。
- 第1次点呼は①エリートの部の場合に3月10日(土)10時から17時まで名古屋観光ホテルで行われ、ナンバーカードなどが配布されます。参加者本人が来場することになっており、代理点呼は認められません。
- ドーピング検査は①エリートの部の場合にIAAF競技会規則により行われます。
- 参加者受付は②一般の部の場合、2012年3月9日(金)10日(土)の2日間、場所:マラソンEXPO会場(ナゴヤドーム)、時間:10時から19時です。※大会当日の受付・上記時間帯以外の受付は行いません。受付時に身分証明書等により本人確認を行います。身分証明書等を持参しない場合は受付できません。③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部も②一般の部の場合と同じです。
- その他の事項ですが①エリートの部への参加者は(1)健康保険証を持参すること。(2)主催者による健康検査は行なわない。各自の責任において、最良の健康状態で参加すること。(3)競技中の事故についての応急処置は主催者で行なうが、以後の責任は負わない。(4)大会の映像は主催者及び共催者の許可なく第三者がこれを使用することを禁止します。②一般の部③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部⑤ファミリージョギングの部において、(1)主催者の責によらない事由で大会が中止になった場合、参加料の返金は一切行いません。(2)本大会は国内の関連するすべての法令を遵守し実施されるものとします。
- 問い合わせ先(申し込み先)①エリートの部の方は中日新聞社スポーツ事業部内名古屋ウィメンズマラソン事務局エリート担当(〒460-8511名古屋市中区三の丸1-6-1 TEL(052)290-0013) / FAX(052)221-0739 ②一般の部③男女ハーフマラソンの部及び④男女10kmの部⑤ファミリージョギングの部の場合は上記中日新聞社内マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知実行委員会事務局 TEL(052)201-1560 / FAX(052)201-1561です。

手が、予選からすべて51秒台で走るという抜群の走りで圧勝しました。また、女子3000mでは豊川のワイナイナ・ムルギ選手が見事2連覇を達成しました。

今回は中京大中京が男女ともよく活躍し、特に女子は、山田恵里選手が100m(8位)と200m(3位)で2種目入賞、竹内麻里子選手が800mで惜しくも2位でしたが、2分06秒32の県高校新記録を見事樹立しました。その結果、女子総合でも7位に入る健闘でした。また、男子でも110mハードルでは清水陽平選手が5位、里地勇飛選手が8位とダブル入賞しました。

複数種目の入賞では、豊川工業の小山裕太選手が男子1500m(6位)と5000m(7位)で2種目入賞しました。

また、7月に名古屋市公会堂で愛知県選手団結成式が行なわれた際、約900名の選手を代表して立派に選手宣誓をした起工業の墨訓熙選手も男子ハンマー投で見事2位に入りました。

それ以外にも多くの選手が活躍しましたが、紙面の関係で割愛させていただきます。大変申し訳ございません。(今回の岩手総体の結果についてはP.21～22を参照してください。)(大島 修)

高体連定通部

平成23年度全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
平成23年8月12日(金)～14日(日)国立競技場

昨年は総合成績で入賞する事が出来ないという、愛知の定通陸上が味わったことがない悔しさであった。今年は、エースこそいないが個々の選手が力をつけ、総合成績で上位を狙える愛知本来の選手団となった。

夏の始まりは涼しかったが、大会は真夏の暑さとなった。特に中長距離は暑さとも戦わなければならず、女子はその影響を受け十分に力を発揮できなかった。上位入賞を期待された奥村選手は、足のケガで400m4位が精一杯であった。例年入賞してきた4×100mRも決勝進出を逃し、女子は4種目のみの入賞にとどまった。

男子は400mHの相羽選手が最後のハードルまでトップであったが、着地に失敗し、優勝を逃した。それでも400m5位、4×400mR5位と、男子キャプテンとして活躍を見せた。都築選手は800m2位、1500m3位、4×400mRの3種目に入賞するなど期待どおりの走りであった。3000mSCは富山選手が過酷なレースを粘って3位となった。5000mは片尾選手が残り一周で順位を上げ、2位となった。4×100mR(愛知選抜)は100m・200m入賞の下村選手(4走)が追い上げ2位となった。トップとの差は0.02秒、愛知県選手団はタメ息と歓喜に包まれた。

4年生となった谷川選手が3000mSC6位、當間選手が砲丸投5位と最後の大会を入賞で飾った。

男女総合3位、男子総合準優勝、男子トラックの部では全種目の入賞を果たして優勝。今年は愛知本来の強さを発揮する事が出来た。

補助金の削減や地震の影響で大会が開催されるか心配な状況であったが、多くの人たちの支えがあって、愛知の選手たちが全国大会で活躍できたことに感謝いたします。

男子

種目	順位	氏名	校名	記録
100m	6位	下村 元紀	科技高刈谷	11.81
200m	5位	下村 元紀	科技高刈谷	24.03

種目	順位	記録	氏名	学校名
400m	5位	相羽 岳志	科技高刈谷	53.33
800m	2位	都築 惇	科技高刈谷	2.06.32
1500m	3位	都築 惇	科技高刈谷	4.28.78
5000m	2位	片尾 祐希	科技高刈谷	16.44.82
400mH	4位	相羽 岳志	科技高刈谷	1.01.43
	7位	バルナックロドルフォ	名古屋西	1.03.90
	8位	日高 雅康	科技高刈谷	1.4.42
3000mSC	3位	富山 裕司	科技高刈谷	11.02.11
	6位	谷川 徹	豊橋・夜	11.22.35
4×100mR	2位	日高・奥原・山中・下村		45.38
4×400mR	5位	松下・都築・富山・相羽		3.43.37
走高跳	7位	渡部 涼	明 和	1.75
円盤投	8位	山崎 飛馬	科技高刈谷	29.01

女子

種目	順位	氏名	校名	記録
400m	4位	奥村 美樹	科技高刈谷	1.07.96
走高跳	5位	平田エリカ	豊橋・昼	1.40
	8位	鈴木 里保	豊橋・昼	1.30
砲丸投	5位	當間くみこ	碧 南	8.36

男女総合3位、男子総合準優勝、男子トラックの部 優勝
(松橋 政人)

実業団

なでしこ JAPAN の快挙から思うこと

あの未曾有の東日本大震災から約半年が過ぎ、復旧から復興へのフェーズに少しずつではあるが移行しつつあると感じるようになってきた。そんな中であって7月に日本中が沸いた。なでしこ JAPAN の快挙である。日本中に歓喜が渦巻き、各方面から賞賛の声が止むことはなかった。なぜ、ここまでのフィーバー振り、そして全ての人にここまで感動を与えたのか。もちろん世界チャンピオンとなった事実。そしてゲーム内容。延長の末、澤選手の劇的で神がかり的なあの同点ゴール。さらにPK戦での鮮やかな勝ち越しゴールも共に実にすばらしい限りであったことは言うまでもない。ただそれだけではないものが彼女達にはあったからこそ、これだけの感動を国民に与えられたと思う。それは新聞TV等の報道で知り得た断片的な情報ではないが、選手達の活動環境(経済面も含め)は決して恵まれたものではないということである。例えばある選手は旅館で時給800円のお風呂掃除をやりながら練習に励み、代表メンバーとして大活躍した。このような背景があるからこそ日本人に共感と呼んだのではないかと思う。今回の成績により支援の輪が少しずつ広がって、更なる目標に向かって進んでほしいものだ。そしてこれが一過性のもではなく、継続性のある方策に繋がればと思うばかりだ。

さて、我々実業団の現状はどうだろうか。幸いにも長距離指向が継続する雰囲気であって、駅伝を中心とする高まりの中、辛うじて長距離部門を企業が支えているのが現実である。箱根駅伝などの映像でよく見られる光景だが、選手がふらふらになりながら襷を繋ぐレース展開こそ日本人気質にマッチするものだからでもあろう。ただこのところ選手個人の実力がマラソン、トラックでなかなか世界と戦えないレベルの現状にあることは否めない。なでしこ JAPAN の選手達よりも少なくとも実業団長距離の選手達は恵まれた環境にあることは事実である。どうかそう言う意味においても更なる奮起を期待したい。

一方で、実業団の短距離及びフィールドの選手達(一般

種目)の環境はどうかとなると様相は一変する。ほんの一握りの選手達は大変恵まれた環境下で活動していることも事実である。中には世界と伍してすばらしい成績を残し、多くの見る人に感動を与えている選手がいるのも事実だ。そのこと自体については大いに結構だと思う。ところが、大半の選手は厳しい環境で競技を続けている事も現実である。一般の従業員と同じように勤務し、就業後の限られた時間の中で精一杯努力精進し立派な成績を挙げている選手も少なくない、これもまた事実。一昔前の重厚長大で右肩上がりのイケイケドンドンの経済環境はおそらく将来も戻らないだろうと思われる。

但し、誤解のなきよう申し上げるが、各企業(実業団の一般種目保有企業)は入社(入部)の門戸は開いている。文武両道(今時と言われるかもしれないが…)の心意気を切に願って止まない。

このような状況だからこそ、高校生、大学生の競技者で卒業後も実業団の一般種目で競技を志す選手は、この厳しい現実を直視し自らの道を切り開いてもらいたいと、声を大にして申し上げたい。

主な大会

- ①全日本実業団対抗陸上競技選手権大会
(9月23日(金)～25日(日)…鳴門)
- ②中部実業団陸上競技選手権大会
(10月10日(月・祝)…多治見)
- ③実業団・学生対抗陸上競技大会
(10月15日(土))…平塚)
- ④実業団女子駅伝中日本大会(中部北陸合同)
(10月16日(日))…岐阜 ※全日本実業団駅伝予選
- ⑤実業団対抗駅伝競走大会(中部北陸合同)
(11月13日(日))…下呂 ※全日本実業団駅伝予選
- ⑥全日本実業団対抗女子駅伝競走大会
(12月18日(日))…宮城 ※震災復興シンボル大会
- ⑦全日本実業団対抗駅伝競走大会
(2012年1月1日(日・祝)…前橋)
(樋高 勇二)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

平成23年度も早いもので上半期が終了しようとしています。愛知マスターズ連盟が催す行事のうち、愛知マスターズ選手権と年4回の記録会が順調に終了し、あとは1月の新年会、3月の総会を残すのみとなりました。

日本マスターズ連合主催の行事としては、全日本マスターズ選手権が8月25日から27日まで和歌山で開かれ、残すは12月の全日本マスターズ駅伝山口大会となっています。その他として、文部科学省主催の全国スポレク祭栃木大会が11月に行なわれます。

愛知マスターズ選手権大会については、既に報告しましたので、今号では愛知マスターズ記録会について少し詳しく報告します。

愛知マスターズ記録会は平成12年5月に第1回記録会を参加者28人からスタートし、第2回が48人、第3回が36人、1年間の総参加者は112人でした。3年後の平成15年6月の第12回で149人が参加して初めて100人を超え、平成19年8月の第29回は206人が参加し、平成22年5月の338人、平成23年4月の第40回では401人が参加し、それぞれ大台を初めて超えてきました。

当初は、参加者を一人でも多く増やすため種目やタイムテーブルを工夫して来ましたが、その効果かどうか判りませんが、参加者が想定以上の多数となったことにより、限られた時間内で競技を消化することが難しい状況となりました。

そこで刈谷市陸協さんのご協力をいただき、平成22年8月の第38回から電気計時を採用して競技運営の迅速化を図りました。しかしながら、それでも増加する参加者に対応が困難となりましたので、今年度は年度途中ではありましたが7月の第42回から開催種目の見直しと、小学生の参加条件を一部制限させていただきました。

見直し後はほぼタイムテーブルどおり運営されましたので、効果はあったものと思われます。会員の競技力向上、会員相互の交流親睦、三世代交流といった記録会開催の目的を可能な限り実現しながら、時間内で競技が消化できるように来年度の計画を検討したいと考えています。

第32回全日本マスターズ選手権和歌山大会が、平成23年8月25日(金)～27日(日)の3日間、全国から1,486人が参加し紀三井寺競技場で開催されました。この大会には、愛知県から103人が参加しました。これは大阪の140人に次ぐ、2番目に多い参加者となり、競技においても男女各10人計20人のチャンピオンが誕生しました。

特に、女子陣は強くW85の長谷川政子は走幅跳で世界新、円盤投では日本新、走高跳でも1位の3冠を獲得し女子優秀選手となり、青木半治賞が授与されました。

そのほかW50の中山淳子は、800m、1500m、3000mの3冠、W30で宮川直子が100m、200m、W45で横山龍子が400m、800m、同じくW45で家田馨子が走幅跳、三段跳、W50では碓井由紀子が400m日本新のほか200mで1位となり2冠を獲得しました。リレー種目の共通、年代別の2種目において他県を寄せ付けず圧勝しました。そのほかW35走幅跳で浅井紀子、W45の100mで金子葉子、同じくW45の80mHで谷寄好美、同じくW45やり投で八代香津子がそれぞれ1位となっています。

女子陣の大活躍でやや影が薄くなった印象の男子陣ですが、SM30で加藤智彦が円盤投、ハンマー投、M70で山田博嗣が砲丸投、ハンマー投、M75で築瀬文彦が60m、100mで2冠を獲得しました。選手層が厚く参加選手が多いM35～M75での1位は至難のことですが、M35の1500mで池田昌雄、M40棒高跳で磯貝剛基、M45円盤投で柴田成夫、M50の400mで畠中一起、M60ハンマー投で中村勉、M70の400mで河村典雄がそれぞれ1位となっています。

次回は岡山県で開催されます。選手のみなさんが一層活躍されることを期待します。(佐野 昭二)

愛知陸協 OB、OG 会

愛知陸協 OB、OG 会総会及び懇親会について



本年も例年どおり7月16日愛知選手権大会1日目の競技終了後、瑞穂ラグビー場1F会議室で開催いたしました。今回は70名の会員に加え、瑞穂運動公園鬼頭所長と2

『全国高校総体』参戦記

男子 5000mW 2位 豊川工業高校3年 沓名 貴輝

今回は2回目のインターハイだったということもあり、予選では落ち着いてレースに臨むことができました。決勝では「目標のタイムを達成したい」や「応援してくださった人達のためにも良い結果を残したい」という気持ちから、スタートでは力んでしまったという課題が残りました。今回は満足のいく結果とはなりませんでした、とても良い経験となりました。今後は国体へ向けてしっかり調整をしていって、全国の舞台でリベンジをしたいと思います。応援してくださった関係者の皆様、ありがとうございました。



男子 400mH 優勝 名古屋高校3年 岡田 壮平



ハードルに対して素人だった僕がここまでやってこれたのは、顧問の先生や環境にとっても恵まれていたからだと思います。初日の400mでは準決勝で負けてしまった悔しさもあり、400mHにかける思いは熱く、絶対決勝に進むんだという意気込みで臨みました。準決勝では調子も良くベストも出ました。インターハイを5日間走れたことはとても嬉しく、良い経験になりました。まだまだ技術的に未完成な部分が多く、課題が残るインターハイでもあったので、国体では自分の納得のいく走りをしたいです。

応援してくださった仲間達の存在は大きく、とても感謝しています。ありがとうございました。

男子ハンマー投 2位 起工業高校3年 墨 訓熙

今シーズンは、怪我により周囲からの期待と自分の状態との違いに悩みました。何とかインターハイ直前には調子も良くなり、万全な状態で試合を迎えることができました。しかし、前日練習では調子が上がらず、冷静さを失いました。先生からアドバイスを受け、自信を持って予選に挑みました。予選は1投でクリアでき、良いイメージを戻すことができました。決勝も1投目から自己ベストを出すことができ、2位でした。

悔しい気持ちもありますが、今ではすっかりした気分になり、皆さんの期待に応えられたのではないかと安心しています。このようなすばらしい経験ができ、関係者の皆さんに感謝しています。今後も努力を続け、更に上を目指し頑張ります。



名の職員、そして協会専門委員長の皆さんを迎え、会場が狭くなるほどの盛会でした。

総会は國分世話人代表挨拶の後、村瀬世話人の司会で平成22年度事業報告及び収支決算報告、次いで平成23年度事業計画(案)、収支予算(案)が小椋世話人より説明され異議なく承認されました。続いて世話人の改選は従来のメンバーが引き続いて担当することになりました。女性会員の増加を願い、石田美知枝さんが新たに世話人に指名され承認されました。

さらに今回会員の皆さんに本会の運営についてアンケート調査を行ない、その内容について平林世話人より説明がありました。今後、皆さんの要望、希望に沿うよう、運営していきたいと思っています。

引き続いて、寿杯祝品の贈呈で米寿(88才)に岩瀬五郎さん、傘寿(80才)には小山田武さん、と内藤義光さん、喜寿(77才)に對木秀之さん、兵道政明さん、安藤昌男さん、杉山茂生さん、國分一郎さんの5氏が受けられました。次に昨年の総会後入会された新会員の紹介があり、剣持悦夫さん、田口茂さん、大津賀賢さん、宮川武士さん、伊田政史さんの5名にOB会バッジが贈呈されました。最後に山内満世話人の閉会のことばの後、ロビーで寿杯受章者、各支部会員が記念写真におさまりました。いよいよ懇親会に移り、今年90才を迎えられて尚、ますますお元気な翠忠明氏の乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。相互の親睦と友情を暖め、有意義な一時を過ごすことができました。

来年以降マラソンフェスティバルが開催され、女性審判

員の増強が求められることから、総会後の世話人会(7月25日)には石田美知枝さんにも加わっていただきました。すでに会の名称が愛知陸協OB会から愛知陸協OB、OG会に変更されていましたが、女性会員の入会資格について話し合われました。男性の入会は60才以上となっていますが、女性の種々な環境をかんがみ、50才以上とすることに決まりました。女性の皆様のご入会をお待ちしています。各支部世話人又は石田美知枝さんが窓口として受付ますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

(村瀬雄一郎)

目・韓・中ジュニア交流競技会観戦記

第19回日・韓・中ジュニア交流競技会愛知・名古屋大会が、8月23日～26日に瑞穂グラウンドで開催されました。(23日と26日は練習会)この競技会は、日・韓・中の3ヶ国と地元愛知選抜・名古屋市選抜の高校生選手が、スポーツ交流を通じて相互理解と競技力の向上を図ることを目的とする事業です。陸上をはじめ、サッカー・テニス・バレーボール等、全部で11種目の競技会が県内各地で行なわれました。

陸上競技は、男女それぞれ延べ24種目と限られた種目数ではありましたが、各代表選手が精一杯記録に挑戦して自己最高記録を出す者も多くいたと聞いています。各国選手控え室にはそれぞれの言葉で出場選手名や結果の記録が表示され、国際大会の雰囲気醸し出していました。地元

名古屋市選抜で400mに出場した岡田壮平選手が3ヶ国の代表を押さえて47秒58で優勝、800mに出場した愛知県選抜の竹内麻里子選手が2分09秒37で2位に入るなど、愛知県や名古屋市選抜の選手も活躍していました。また、最後の400mリレーでは、各国や各チームの全選手がトラック間際に整列して大歓声で応援し、大いに盛り上がっていました。



全員でリレーの応援



不正スタート発見装置

一方、瑞穂グラウンド初のスタート時における不正スタート発見装置でR.T.(リアクションタイム)をニシスポーツが計測しました。リザルトに記入して配付すると、各選手が興味深く自分の反応時間を見ていました。R.T.が0.100未満は不正出発ということで失格になります。ちなみに、男子100m競走参加者全員の平均が0.147、女子400mの平均が0.242と、100m競走や110m・100mハードルなどは反応がより早く、400m競走はスタートの反応タイムよりも走力そのものが必要とされる様子をうかがうことができました。

さて、前日の練習会や当日の競技会の合間に、身振り手振りや片言の英語などで互いの専門種目や自己最高記録を教え合ったり記念撮影をしたりと、交流を図る場面も多く見られ、そうした面でも成果が上がっていたようです。



退場する中国選手団

この交流競技会は、将来各国の中心となる選手が一同に会して交流した、とても意義深い競技会でした。

(新見 精三)

第19回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

鈴木 舜也(愛知：成章高校)

今回この競技会に参加させてもらい、異文化をとて身近に感じることができました。



ジェスチャー等で交流

大会中、あまり話さなくても何も壁を感じることはありませんでした。国や言葉が違うという先入観で自分から壁を作りがちですがそれは間違いで、積極的に知ろうとすることが大切だと思いました。特にフレンドシップ交流会では、本当に異文化を身近に感じました。言葉はほとんど分からなかったけど、ジェスチャーなど行動で示してくれてとても楽しむことができました。会場を巻き込むパフォーマンスやダンスなど、文化を越えた演技に感動する貴重な体験

大会中、あまり話さなくても何も壁を感じることはありませんでした。国や言葉が違うという先入観で自分から壁を作りがちですがそれは間違いで、積極的に知ろうとすることが

ができ、今後のためになることをたくさん吸収できた時間でした。

自分の競技の力は、世界の中ではまだまだだと実感しました。具体的には、助走スピードはもちろん踏切最後のさばきの技術、空中での伸びなどすべてにおいて学ぶ点が多く、少し悔しい思いをしました。でも大会に参加して、これからの自分に役立つことをたくさん見つけることができました。発見させてくれた人達に感謝して、次の機会にはよりライバルとして今度は負けないよう努力していきたいです。

この大会に参加できたことは、参加できなかった人を一歩リードしているということです。この貴重な体験を自分のものにして、さらに強い選手として成長していきたいと思いました。

第19回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して

竹内麻里子(愛知：中京大中京高校)

このような国際大会へ参加できると決まった時、本当に嬉しく喜びでいっぱいでした。私は2年前にもこの大会と縁があり韓国へ行って、再びこのような貴重な経験ができることを誇りに思います。偶然にも、今回は名古屋での開催。地元愛知代表として全力で競技に挑もうと思い参加しました。相手が、日本・韓国・中国各国の代表という自分以上の選手だったので、「追いつけ! 追い越せ!」でした。中国・韓国の選手は本当に同じ高校生なのか?と思うほど背が高く大人っぽく、とにかく強そうでした。ウォーミングアップの動きは「キリッ」ととても速く、まだまだ自分には基本から足りないことが多いと感じました。

そんな各国の選手たちも、レース後、写真を撮る際には、「一緒に撮ろう!」とジェスチャーで誘ったり、覚え立ての日本語で喋りかけてくれたりなど、どれもよい思い出です。これを思い出だけで終わらせるのではなく、今後日本代表として「JAPAN」をつけ、海外の試合に参加できる選手になりたいと強く思いました。そのために、もっと強い体力や精神力をつけたいです。

最後に、2日間の試合を「チーム愛知」として共に戦った仲間、先生方、試合を不自由なく進行して下さった役員の方皆さん、いろいろな方々の支えのおかげでこうして素晴らしい経験ができました。本当にありがとうございました。

2011アジア・インターシティ高校陸上競技大会 参加報告

1. はじめに

昨年に引き続き、本年もチャイニーズ台北陸上競技協会より参加招待状をいただき、国体強化委員会より「2012年国体での活躍が期待される選手」を男女各5名ずつ選んでいただいた。そこに役員の方2名とあわせ、総勢12名の『名古屋隊』(中国語での名古屋チーム)が8月27日・28日の2日間、台湾の台北スタジアムで熱戦を繰り広げてきた。

2. 選手団

役割	氏名	所属
監督	鈴木 孝則	名古屋
トレーナー	阿部美由紀	愛知陸協
選手	宮崎 海悠	名古屋大谷
選手	長田 拓也	豊川

選手	川浪 駿	名城大附
選手	二宮 聡史	岡崎北
選手	小出 拓実	名古屋
選手	松井香保里	中京大中京
選手	森 佑紀那	中京大中京
選手	檜山 楓	津島
選手	原 菜月	旭野
選手	菅原 美里	瑞陵

3. 日程

8月25日(木)

- 10:00 中部国際空港出発
- 12:00 台北桃園国際空港到着
- 14:30 選手村到着(兄弟大飯店)
- 15:30 台北スタジアム見学・練習

8月26日(金)

- 09:00 台北スタジアムにて調整練習
- 11:30 オープニングセレモニー(小出が参加)
- 18:30 歓迎晩餐会

8月27日(土)

- 10:30 監督会議
- 15:00 競技開始
- 20:30 競技終了



8月28日(日)

- 09:00 午前の競技開始 『名古屋隊』男子:左より宮崎・小出・二宮・長田・川浪
- 10:40 午前の競技終了
- 14:00 午後の競技開始

【台風の影響で午後繰上げ開始】

- 17:30 午後の競技終了

8月29日(月)

- 09:00 選手村出発 台北市内観光
- 17:10 台北桃園国際空港出発
- 20:50 中部国際空港到着

4. 出場チーム

東京、静岡、名古屋、香港、マカオ、バンコク、シンガポール、クアラルンプール、マニラ、木浦、台湾10都市 以上20チーム

5. 出場選手数

男子220名 女子170名(オープンも含む)

6. 競技結果(○数字は予選順位)

男子

100m	長田 拓也	予選 ①11.02 (-0.5) Q
		決勝 3位 10.73 (+0.8)
200m	宮崎 海悠	予選 ②21.82 (+1.2) Q
		決勝 2位 22.02 (-0.1)
	長田 拓也	予選 ①22.36 (-0.2) Q
		決勝 4位 22.27 (-0.1)
400m	宮崎 海悠	予選 ①49.03Q
		決勝 優勝 48.09
110mH (0.99m)	川浪 駿	予選 ②14.76 (-2.3) Q
		決勝 3位 14.54 (-0.3)
走幅跳	二宮 聡史	決勝 2位 6.95 (+0.1)
砲丸投	小出 拓実	決勝 8位 12.67 (6.0kg)
円盤投	小出 拓実	決勝 7位 38.93 (1.75kg)
円盤投	小出 拓実	決勝 5位 37.87 (2.0kg)

4×100mR (川浪・長田・二宮・宮崎)

決勝 失格(1→2)

女子

100m	森 佑紀那	予選 ②12.70 (-2.0) Q
		決勝 5位 12.42 (+0.4)
	松井香保里	予選 ⑤13.05 (-0.8)
200m	森 佑紀那	予選 ③26.44 (+2.3) q
		決勝 6位 26.22 (+1.0)
	松井香保里	予選 ④26.82 (+0.4)
	檜山 楓	予選 ④27.06 (-0.6)
400m	檜山 楓	予選 ②59.62Q
		決勝 5位 58.77
	原 菜月	予選 ②59.48Q
		決勝 6位 59.36
400mH	原 菜月	決勝 3位 64.87
走幅跳	菅原 美里	決勝 6位 5.20 (+0.5)
三段跳	菅原 美里	決勝 2位 10.74 (+1.0)
4×100mR	(檜山・菅原・松井・森)	決勝 3位 48.57

Q=着順による決勝進出、q=プラスによる決勝進出



女子は全員メダルを獲得!

7. トピックス

試合に関しては何と云っても、名古屋チームから初めての優勝者が出たことである。400mチャンピオンとなった宮崎は200mでも2位に入賞し、金・銀とメダルを獲得する華々しさであった。また、3位に入賞した100mの長田と110mハードルの川浪、女子4×100mリレーのメンバーと、次々と表彰台に上がり、チームのテンションは上がりっぱなしであった。

二日目の午後のセッションは、台風の影響で予定より1時間早く始まったが、3時頃から猛烈な雨と風に見舞われた。そんな厳しいコンディションの中、走幅跳の二宮、円盤投の小出らフィールド種目の選手が健闘した。

試合後には、他国の選手とTシャツを交換したり、肩を組んで写真に収まるなど、親睦をはかることもしっかりとできていた。



箱庭のような台北スタジアム



歓迎晩餐会にて

8. おわりに

昨年度より選手は2人減ったが、男女ともリレーにエントリーできた。男子は残念ながらバトンを落としてしまっ

だが、選手達はリレーを楽しみにやってきたようで、次年度以降も組めることを願う。メンバーについては、東京・静岡ともに国体メンバーで挑んでおり、様々な試みをしてきた。名古屋(愛知)もその年の国体メンバーで挑めると、他県にないアドバンテージが得られると思う。

また今回、阿部トレーナーがチームにつながりとまろやかさとクーラーボックスを与えてくれた。彼女のケアのおかげで選手のコンディションが大変良く、好成績につながったと言える。

台湾におけるスポーツ振興、そして競技力向上と国際交流を目的として開催された大会に参加できたことを感謝するとともに、今後ますますの競技力の向上と普及発展につなげていきたいと思う。



通訳の羅姉妹と一緒に

9. 参加者の感想
長田 拓也(豊川)

僕は、今回のアジア・インターシティ大会で初めての国際試合を経験させていただきました。初めは言語の違いや食事が油っこいことに戸惑いましたが、先生方や通訳の方のおかげで徐々に慣れていくことができました。コミュニケーションは、片言の英語や「ニーハオ」「シェイシェイ」だけの中国語でなんとか会話ができて、多くの仲間ができました。試合では慣れていない海外での生活のせいか少し体が重く感じましたが、周りに引っ張られて自己ベストタイを出すことができました。次に海外試合の機会があれば日本食に近いものを摂り、普段のコンディションに近づけるようにします。引率していただいた先生方に感謝し、これらの経験を今後の自分、チームに活かしていきたいと思えます。(鈴木 孝則)

競技会報告

第58回東海高等学校総合体育大会兼秩父宮杯
第63回全国高等学校陸上競技対校選手権大会東海地区予選会
平成23年6月17日(金)~6月19日(日) 小笠山総合運動公園静岡スタジアム

男子

斜体：大会新

種目	順位	記録	氏名	学校名
100m	2	10.69	西垣 佳哉	中京大中京
	3	10.82	渡辺 将志	名古屋
	6	10.87	河室 裕貴	名古屋
200m	2	21.86	河室 裕貴	名古屋
	5	48.07	岡田 壮平	名古屋
400m	7	48.50	植村 英佑	滝
	8	50.08	松本 優一	中京大中京
800m	1	1.53.89	黒川 大地	日進西
	2	1.54.35	新橋 基功	岡崎城西
	6	1.55.34	加藤 大稀	瑞陵
1500m	3	3.55.80	小山 裕太	豊川工
	4	3.55.95	大川 瞬	愛工大名電
	6	3.56.18	宮田 峻佑	豊川工
5000m	1	14.00.69	カレミ ズク	豊川
	3	14.26.67	神野 大地	中京大中京
	4	14.27.77	小山 裕太	豊川工

種目	順位	記録	氏名	学校名
5000m	5	14.29.68	湯田 晨旭	豊川工
110mH	2	14.78	清水 陽平	中京大中京
	4	14.84	里地 勇飛	中京大中京
	6	15.12	古元 翼	名古屋
	8	15.34	角田 涼一	中京大中京
400mH	1	52.28	岡田 壮平	名古屋
	3	53.44	原 捷太	豊川
	6	54.33	竹屋 壮修	西尾
	8	1.00.70	植村 英佑	滝
3000mSC	3	9.11.05	木谷 充稀	横須賀
	4	9.12.00	平松 大輔	豊川
	6	9.15.52	安藤 悠哉	豊川工
5000mW	1	21.49.87	杏名 貴輝	豊川工
	2	21.15.63	戸松 弘成	一宮西
4×100mR	1	40.57	掛川 真	名古屋
			河室 裕貴	
			掛村 将之	
	3	41.10	渡辺 将志	豊川
			田中 威史	
			長田 拓也	
4×400mR	3	3.14.68	木村 祐貴	名古屋
			原 捷太	
			岡田 壮平	
	6	3.15.71	掛村 将之	名古屋大谷
			三浦 央頌	
			河室 裕貴	
8	3.24.71	木屋川内浩二	中京大中京	
		鷲見 建亮		
		川野 直哉		
走高跳	4	1.98	宮崎 海悠	中京大中京
	5	1.98	佐藤 晃浩	
棒高跳	4	4.60	松本 優一	名城大附
	6	4.50	清水 陽平	
	7	4.40	榎 将太	
走幅跳	2	7.03	榎 将太	岡崎城西
	4	6.91	梶浦 悠	
	7	6.88	野村 健人	
	8	6.87	鈴木 舜也	
砲丸投	1	15.60	二宮 聡史	岡崎北
	4	15.03	北川 翔馬	
	7	14.42	樺山 雅峰	
円盤投	1	46.92	越 寛将	至学館
	5	42.85	白石 健太	
ハンマー投	2	57.97	松尾 卓郎	瑞陵
	5	54.89	小出 拓実	
	7	54.52	墨 訓熙	
	8	53.84	白石 健太	
やり投	4	59.64	加藤 彰真	豊田大谷
	8	53.84	阿部 仁志	
八種競技	4	4975	八木 一憲	大府
	5	4898	青山 耕也	
	6	4887	矢野 智大	
	7	4854	平林 卓磨	
総合成績	1位：名古屋 35.5点 3位：中京大中京 21点			
トラックの部	1位：名古屋 28.5点			
フィールドの部	2位：至学館 12点			

女子

斜体：大会新

種目	順位	記録	氏名	学校名
100m	2	12.03	山田 恵里	中京大中京
	4	12.27	森 佑紀那	中京大中京

種目	順位	記録	氏名	学校名
200m	2	24.56	山田 恵里	中京大中京
	5	25.08	北野 有紀	愛知淑徳
400m	5	56.66	竹内麻里子	中京大中京
	7	56.90	家田 知佳	至学館
800m	1	2.11.73	竹内麻里子	中京大中京
	2	2.13.66	青柳 妃咲	光ヶ丘女子
	6	2.16.94	横山友里乃	愛知
1500m	1	4.27.24	清田 真央	中京大中京
	3	4.28.55	西川かりん	中京大中京
	4	4.28.89	宮田佳菜代	豊川
	6	4.30.65	北本可奈子	千種
3000m	1	9.10.80	ワйнайна ムルギ	豊川
	2	9.14.99	荘司 麻衣	岡崎学園
	3	9.15.18	安藤 友香	豊川
	5	9.19.00	黒川沙莉愛	豊川
	6	9.19.52	清田 真央	中京大中京
	8	9.49.55	荻野 夏帆	時習館
100mH	3	14.09	飯田 美咲	名城大附
	4	14.39	兼子あさみ	中京大中京
	5	14.39	白井 奈央	時習館
400mH	3	1.02.87	家田 知佳	至学館
	5	1.03.22	原 菜月	旭野
	6	1.03.77	太田 志穂	岡崎城西
5000mW	1	25.02.80	浜本 桂	千種
	3	25.29.02	村上 瑠菜	惟信
	5	25.59.21	川村 有加	至学館
	6	26.25.37	宮地 志奈	半田
4×100mR	2	46.94	西川 彩乃	中京大中京
			山田 恵里	
			松井香保里	
	6	47.74	吉川有香子	至学館
			布施 和花	
			征矢 萌唯	
4×400mR	2	3.48.50	山田 恵里	中京大中京
			吉川 侑希	
			森 佑紀那	
	4	3.52.18	竹内麻里子	至学館
			中井 朝日	
			布施 和花	
	5	3.52.31	征矢 萌唯	津島
			家田 知佳	
			後藤 鞠枝	
7	3.54.38	檜山 楓	愛知	
		棚橋 美幸		
		平野 杏奈		
		川口 真由		
走高跳	1	1.70	北島 菜瑠	瑞陵
	2	1.67	杉浦 澄美	岡崎城西
	6	1.61	山口 実梨	岡崎城西
走幅跳	1	5.73	布施 和花	至学館
	4	5.58	菅原 美里	瑞陵
	5	5.52	浅井 真子	光ヶ丘女子
	6	5.52	酒井 瞳味	岡崎城西
	8	5.45	太田 成美	国府
砲丸投	5	11.72	近藤 瞳	津島北
	5	36.20	近藤 瞳	津島北
円盤投	6	36.08	太田 奈穂	光ヶ丘女子
	7	36.07	芳賀恵里香	日進西
やり投	1	48.08	高塚 裕子	名城大附

種目	順位	記録	氏名	学校名
やり投	8	41.34	森口 芹菜	至学館
七種競技	1	4295	各務 琴音	明和
	5	4241	平手 佑佳	名城大附
総合成績	2位：中京大中京 45点 5位：至学館 16点 6位：豊川 15点			
トラックの部	1位：中京大中京 45点			
フィールドの部	3位：瑞陵 9点			

2011 愛知県小学生リレー大会
2011年6月26日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR：大会新記録／PR：県小学生最高記録)

種目名	1位	2位	3位
4年50m	井之上晴輝 7.91 JAC武豊	中西 琳哉 7.95 小牧ジュニア	齋藤 岳 7.99 豊橋陸上クラブ
4年走幅跳	澤田 佳樹 3.67 JAC武豊	服部 凱杏 3.56 千代田橋 AC	鈴木 皓介 3.54 なごや陸上ク
5年100m	土岐 和也 14.15 作野 AC	村田 響 14.41 豊橋陸上クラブ	松山 卓暉 14.49 豊橋陸上クラブ
6年100m	大原 康平 13.00 なごや陸上ク	筒井 幹太 13.15 豊橋陸上クラブ	氏田 貴之 13.27 知立ジュニア
全国80mH(0.700m)	松岡 京 12.99 千代田橋 AC	高橋 舞羽 13.45 豊橋陸上クラブ	近藤 寛人 13.92 知立ジュニア
全国4×100m	豊橋陸上ク A 51.99 高橋 舞羽 筒井 幹太 外山 零 杉山 尚規	安城 JAC 52.14 吉田 将 藤本 高壮 本田 和馬 江川 誠人	田原陸上クラブ A 53.32 仲井 陽大 前橋 竣耶 森川伸太郎 中野 翔基
全国走高跳	福井 貫汰 1.36 TSM	黒田 亘 1.30 YOUKI 陸上	杉田 光 1.30 知立ジュニア
全国走幅跳	黒野 敬斗 4.80 いっしき陸上	天野 瞳汰 4.66 新城陸上教室	福田 孝輝 4.56 JAC 大府
全国ソフトボール投	安部 大誠 58.37 作野 AC	河合 亮良 57.57 安城東部 AC	柴田 由輝 55.20 安城北部 AC

女子 (GR：大会新記録／PR：県小学生最高記録)

種目名	1位	2位	3位
4年50m	三宅 真生 8.15 TSM	小林 友香 8.18 安城北部 AC	大城 珠莉 8.24 十四山体育ク
4年走幅跳	正城 海瑠 3.92 JAC 大府	安藤 萌衣 3.83 なごや陸上ク	青木 琴子 3.82 TSM
5年100m	米重 美紅 14.48 豊橋陸上クラブ	富塚日南々 14.57 JAC 武豊	渡部 純果 14.66 JAC 大府
6年100m	川端 真奈 13.68 安城 JAC	長谷川愛樹 13.91 なごや陸上ク	森 みくる 14.50 安城 JAC
全国80mH(0.700m)	猪塚 真希 13.37 なごや陸上ク	久野 景子 13.49 豊橋陸上クラブ	原 智聖 13.52 JAC 大府
全国4×100m	安城 JAC 53.16 鳥居 夏帆 川端 真奈 森 みくる 野村 梨紗	なごや陸上クラブ 53.93 清水 千晴 森田 祐美 猪塚 真希 長谷川愛樹	豊橋陸上 C A 54.81 松井 葉奈 久野 景子 永田 佳子 土方 若菜
全国走高跳	永田 佳子 1.33 豊橋陸上クラブ	松井 葉奈 1.25 豊橋陸上クラブ	田口莉果子 1.25 田原陸上クラブ
全国走幅跳	吉村 月乃 4.88 東浦 AC PR GR	清水 千晴 4.66 なごや陸上ク	南野 有紀 4.40 とよた AC
全国ソフトボール投	河合 愛衣 44.69 JAC 武豊	増田 侑里 42.94 高浜 TSC	石垣 綾香 39.93 JAC 武豊

混合

種目	1位	2位	3位
4年4×100m	豊橋陸上 C A 1.01.02 村田 侑菜 沖 有友里 町田 啓允 齋藤 岳	TSM-A 1.01.18 藤井 花香 三宅 真生 岩田 真輝 阿部 大夢	なごや陸上ク A 1.01.26 安藤 萌衣 石井 冨佳 小林 莊太 大月 翔矢

5年 4×100m	豊橋陸上C A 55.77	安城 JAC-A 56.09	安城 JAC-B 57.02
	生田奈緒子	成瀬 汐七	畔柳 幸奈
	米重 美紅	浅岡 陽名	宮川 愛海
	松山 卓暉 村田 響	野々山 開 中島 亨	森下 広翔 戸田 健太

ジュニア女子	種目	1位	2位	3位
	砲丸投 (4.000kg)	中内 真悠 8.44 竜海中	秦 里帆 7.85 千種台中	足立 貴子 7.05 木曾川中
	円盤投 (1.000kg)	樋口菜々日 24.87 香流中	能沢 照実 21.82 守山西中	遠藤 実奈 21.77 古知野中

2011 東海混成競技大会兼第 32 回愛知県混成競技大会
兼第 71 回愛知選手権リレー兼国体選考競技会・ジュニア記録会
2011年7月2日(土)・3日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

第 8 回愛知レディース陸上競技大会
2011年7月2日(土)・3日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

(GR: 大会新記録 / EGR: 大会タイ記録)

	種目	1位	2位	3位
東海	男子混成十種競技	伊藤 俊和 6773 中京大	早川 周吾 6481 安城学園 AC	牧野 光汰 6193 中京大
	女子混成七種競技	太田 穂 4203 至学館大		
愛知	男子混成十種競技	伊藤 俊和 6773 中京大	早川 周吾 6481 安城学園 AC	井上 将成 6047 東三河 AC
	男子混成四種競技	深谷 隼斗 2143 有松中	久永健太郎 2095 葵中	稲垣 孝祐 1889 香流中
	女子混成七種競技	平手 佑佳 4271 名城大附属高	太田 穂 4203 至学館大	森田 万智 3660 横須賀高
	女子混成四種競技	古澤 彩果 2609 香流中	遠山 実希 2352 香流中	山口 七海 2201 葵中
選手権男子	5000m	阿宗 高広 14.28.71 愛三工業	藤井 輝 14.31.20 愛三工業	鈴木 伸司 14.35.08 愛三工業
	10000m	池田麻保呂 30.40.37 愛知製鋼	坂井 俊介 30.47.17 中央発條	住田 直記 31.02.18 愛知製鋼
	4×100m	名古屋高 40.41PH 掛川 真貴 河室 裕真 掛村 将之 渡辺 将志	至学館大 41.05 藤田 敏幸 山口 明宏 浅野 伸明 千田 幸輝	栄徳高 41.42 牧野 恭兵 寺田 健人 井上 脩吾 宇野 佑哉
		4×400m	中京大 3.16.28 山内 博貴 安井 一樹 山田 瑞輝 森下 創史	名古屋大谷高 3.16.64 木屋川内浩二 鷺見 建亮 杉浦 涼太 宮崎 海悠
	5000m	荳司 麻衣 16.34.88 岡崎学園高	清田 真央 16.41.88 中京大中京高	田摩 妙如 17.21.87 中京大中京高
4×100m	中京大中京高 47.47 西川 彩乃 山田 恵里 松井香保里 森 佑紀那	至学館高 47.83 中井 朝日 征矢 萌唯 吉川有香子 家田 知佳	名城大附属高 47.95 吉田 真樹 飯田 美咲 片山依瑠美 足立 香澄	
	4×400m	中京大中京高 3.51.97 吉川 侑希 山田 恵里 西川 彩乃 竹内麻里子	至学館大 3.54.63 伊藤 亜依 塩野谷幸依 杉浦 真梨 西尾真梨子	愛知高 3.57.98 久坂保優子 矢沢小百合 山田信乃以 川口 真由
国体男子少年B	100m	掛川 真 11.20 名古屋高	井上 脩吾 11.31 栄徳高	金森 怜也 11.34 名古屋高
	3000m	河合 祐哉 8.55.36 時習館高	彦坂 要 9.00.75 豊川高	富安 央 9.03.73 豊川工高
	110mH (0.991m)	古元 翼 14.86 名古屋高	三浦 成皓 14.87 名古屋高	矢野 智大 14.91 中京大中京高
	走幅跳	伊藤 裕也 6.67 豊川東部中	渡邊圭一郎 6.51 富士中	山本 研二 6.37 名古屋高
砲丸投 (5.000kg)	杵本 裕貴 13.87 名古屋高	永井 宏典 12.94 豊田大谷高		
国体女子少年B	100m	伊藤 南佑 12.65 とよた AC	杉山 美貴 12.68 中京大中京高	田中優梨亜 12.96 国府高
	1500m	山田日菜野 4.34.38 みよし北中	加治屋ななこ 4.38.20 豊川高	堀 舞花 4.38.23 中京大中京高
	100mYH (0.762m)	萩原加奈子 14.36 豊橋南高	手嶋 風理 15.96 光ヶ丘女高	
	走幅跳	石原 薫子 5.57 岡崎城西高	石川加奈子 5.22 中京大中京高	近藤 佑香 5.17 竜海中
ジュニア男子	円盤投 (1.500kg)	太田 康介 25.42 守山西中	音 涼斗 24.83 萩山中	渡辺 大智 24.75 萩山中
	砲丸投 (4.000kg)	井上 翼 10.60 千種台中	柳井 陸 9.98 古知野中	川合 惣士 8.22 木曾川中

	種目	1位	2位	3位
中学	100m	中野 真琴 12.40 豊橋東部中 GR	水谷有友美 12.82 長良中	掛川 栞 13.01 栄中
	200m	古沢みのり 27.07 なごや陸上ク	神手菜々子 27.17 六ツ美中	菅嶋 悠乃 27.81 AC 一宮
	800m	山田 海鈴 2.20.75 田原中	奥村 麻友 2.25.38 逢妻中	林 佑南 2.25.88 なごや陸上ク
	1500m	山本 怜奈 4.54.11 六ツ美中	岩崎 美波 4.54.47 鶴城中	下村 怜伽 4.57.48 香掛中
	100mJH (0.762m)	柳瀬 理央 15.50 守山西中	松本 莉奈 15.70 岩津中	所 杏子 16.03 千種台中
	走高跳	松井 紗希 1.62 鶴城中 GR	梶野 香子 1.62 なごや陸上ク GR	大和田ゆうか 1.59 代田中 GR
	走幅跳	矢野 友蒔 5.16 長良中	山下 瑞季 4.93 亀崎中	土屋友梨奈 4.92 古知野中
	砲丸投 (2.721kg)	中村 彩花 12.89 豊橋陸上ク	樋口菜々日 11.79 香流中	長野 莉香 10.40 香流中
	100m	山田 恵里 12.13 中京大中京高 EGR	森 佑紀那 12.36 中京大中京高	近藤 希実 12.42 愛知教育大
	200m	鷹羽 桃子 26.31 愛知アスリート	松井香保里 26.34 中京大中京高	成田 幸代 26.66 愛知教育大
一般	400m	吉川 侑希 57.33 中京大中京高 GR	安保 真衣 57.37 至学館大 GR	塩野谷幸依 58.55 至学館大 GR
	800m	竹内麻里子 2.11.80 中京大中京高 GR	八木 瑞希 2.17.61 中京大 GR	佐々木明花 2.20.21 岡崎城西高
	1500m	高橋 季香 4.37.79 中京大中京高	今泉 志穂 4.38.94 東邦高	岡村 若葉 4.45.53 岡崎城西高
	100mH (0.840m)	山崎由加里 14.07 栄新薬 GR	兼子あさみ 14.45 中京大中京高	齊藤 早希 14.73 岡崎城西高
	400mH (0.762m)	齋藤 結 1.00.30 中京大 GR	大谷友梨恵 1.00.84 至学館大 GR	家田 知佳 1.04.41 至学館高
	3000mSC (0.762m)	大山 早紀 12.12.25 岡崎城西高	成田 菜由 13.43.70 春日井高	
	走高跳	松本明日美 1.74 中京大ク GR	炭 水土里 1.64 中京大	平松真由香 1.64 岡崎城西高
	走幅跳	布施 和花 5.65 至学館高 GR	遠山かおり 5.55 愛知商高 GR	菅原 美里 5.54 瑞陵高 GR
	三段跳	小川 詩織 12.25 愛知アスリート	岩月 愛子 11.46 至学館大	松山 衣里 10.97 中京大
	砲丸投 (4.000kg)	林田 星奈 10.03 至学館高	竹内 友理 9.65 横須賀高	山之内里奈 9.50 名古屋南高
共通	円盤投 (1.000kg)	加藤 千枝 41.98 至学館大 GR	近藤 瞳 41.84 津島北高 GR	松山 有沙 31.92 名古屋商高
	やり投 (0.600kg)	三浦 萌 43.57 愛知学院大	浅井 美咲 39.45 至学館高	福永 理紗 39.45 愛知学院大
	棒高跳	松下 琴子 3.00 中京大中京高 EGR	高木 志帆 3.00 中京大中京高 EGR	船本 新奈 2.70 三好高
	スクエーデンリレー 100+ 200+ 300+ 400m	津島高 2.18.51 棚橋 美幸 後藤 鞠枝 平野 杏奈 檜山 楓	愛知商高 2.22.19 伊藤 麻子 梅村奈央子 大川紫央里 遠山かおり	名城大附高 2.23.59 片山依瑠美 吉田 真樹 藤山 紗希 足立 香澄

第57回全日本中学校通信陸上競技愛知県大会
 兼第38回全日本中学校陸上競技選手権大会愛知県予選会
 兼第66回国民体育大会選手選考競技会(少年B・共通)
 2011年7月18日(月・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子

(◎: 標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	和田 瑞輝 12.24 田原	伊藤 廉 12.68 安城北	長谷 成将 12.69 鶴城
1年1500m	杉田 大和 4.36.96 高豊	酒井 来征 4.36.99 岡崎南	小林 福茂 4.38.15 豊川東部
2年100m	新美 泰地 11.76 東浦	善 大輝 12.13 東山	大崎 慎平 12.24 安城南
3年100m	黒木 省悟 11.25 矢作◎	村瀬 翔太 11.28 城山	寺島 航汰 11.41 北陵
200m	村瀬 翔太 22.58 城山◎	遠藤 侑汰 23.20 篠目	川端 健太 23.30 東山
400m	伊藤 友明 51.84 千種◎	高橋 瑞己 52.48 前林	林 憲吾 52.76 古知野
800m	宮田 暁生 2.01.37 宮田◎	野津 亮祐 2.01.78 青陵	小島 勇人 2.01.93 今伊勢
1500m	平野 誉之 4.08.52 石巻◎	野津 亮祐 4.11.21 青陵	飯島 康介 4.17.99 西浦
3000m	平野 誉之 8.52.21 石巻◎	飯島 康介 8.58.54 西浦◎	服部 晟也 8.59.97 吉良◎
110mH(0.914m)	岩崎 聖 15.27 東海	渡邊圭一郎 15.60 富士	鈴木 康隆 15.61 甲山
4×100mR	篠目 45.01 村瀬 雅季 遠藤 侑汰 安藤 大樹 中西 悠真	北陵 45.46 神 航 寺島 航汰 松尾 隆佑 松尾 直佳	大口 45.52 森田 泰巨 中村 快 林 青駒 渡邊 麻仁
走高跳	水谷 来 1.91 朝日丘◎	近藤 雅哉 1.88 美川◎	中島 恭佑 1.82 西尾東部
棒高跳	太田 雄介 3.55 石巻	高橋 幸大 中山 研祐	守山 3.55 上郷
走幅跳	渡邊圭一郎 6.65 富士◎	伊藤 裕也 6.57 豊川東部◎	鳥居 凌大 6.37 六ツ美
砲丸投(5.000kg)	清水 和樹 12.60 味美	山崎 優太 11.77 はとり	鈴木 慶彦 11.65 駒方

女子

(◎: 標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年100m	掛川 栞 13.07 栄	谷元 見優 13.24 高針台	釜田 留奈 13.28 山王
2年100m	中野 真琴 12.51 豊橋東部◎	浜田 奈子 12.97 高浜	菅嶋 悠乃 12.98 扶桑
3年100m	伊藤 南侑 12.62 梅坪台	河合 詩菜 12.70 安祥	村越優里奈 12.82 六ツ美北
200m	河合 詩菜 25.82 安祥◎	石原 果奈 26.29 成岩	掛川 栞 26.63 栄
800m	加藤 遥香 2.20.56 諸輪	伊藤 早紀 2.20.66 赤羽根	近藤 咲希 2.21.42 章南
1500m	山田日菜野 4.35.64 みよし北◎	鷺見 梓沙 4.36.59 杏掛◎	中根 千明 4.40.65 矢作
100mH(0.762m)	渡邊友紀子 14.95 武豊	吉田 奈生 15.12 愛知淑徳	吉田有美香 15.32 滝
4×100mR	長良 50.55 加藤 里奈 大蔵 伊織 矢野 友蒔 水谷有友美	千種 50.92 水野 瑛梨 橋詰 奈々 毛利 梨華 菱山 綺更	豊橋東部 白井なつ美 ノベラアリサ 鈴木 幹奈 中野 真琴
走高跳	梶野 香子 1.60 昭和橋◎	大和田ゆうか 水野 彩菜	代田 1.57 ◎ 前林
走幅跳	辻 美貴子 5.22 竜神	矢野 友蒔 5.18 長良	近藤 佑香 5.12 竜海
砲丸投(2.721kg)	中村 彩花 13.07 吉田方◎	樋口菜々日 12.93 香流◎	早瀬 名那 12.45 長良

第71回愛知陸上競技選手権大会
 兼第54回東海陸上競技選手権大会予選会
 兼第66回国民体育大会選手選考競技会
 2011年7月16日(土)・17日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子

種目	1位	2位	3位
100m	田中 星次 10.66 トヨタ自動車	高橋 周治 10.90 東海高	長田 拓也 10.91 豊川高
200m	安井 一樹 21.81 中京大	鈴木 大介 21.95 日本大	寺田 健人 22.39 栄徳高
400m	牧野 武 47.67 早稲田大	岡田 壮平 47.78 名古屋高	恩田 健人 47.91 東洋大
800m	粟津 良介 1.54.57 明治大	新橋 基功 1.55.15 岡崎城西高	黒川 大地 1.55.29 日進西高
1500m	小島 秀斗 3.53.14 日本大	山本 修平 3.54.82 早稲田大	小山 裕太 3.55.56 豊川工高
110mH(1.067m)	飯田 将之 13.99 チームミズノ	古川裕太郎 14.04 小島プレス	内藤 真人 14.09 ミズノ
400mH(0.914m)	岡田 壮平 51.82 名古屋高	中嶋 一成 52.21 早稲田大	東 政義 53.80 トヨタ自動車
3000mSC(0.914m)	赤染 健 9.06.29 中央発條	加藤 聡 9.07.42 トヨタ自動車	濱 克徳 9.23.11 中央発條
5000mW	木村 洋介 21.06.21 順天大	杉本 明洋 21.18.07 merclair	香名 貴輝 21.39.87 豊川工高
走高跳	川端 哲矢 2.10 岡崎城西高	加藤 紀一 2.05 名古屋工業大	真鍋 周平 2.00 トヨタ自動車
棒高跳	山本 聖途 5.25 中京大	近田 竜雅 5.00 関西学院大	梶浦 悠 4.70 豊川高
走幅跳	木村 友紀 7.63 愛知陸協	西 航司 7.27 日本大	平尾亮一郎 7.24 愛知学院大
三段跳	木村 友紀 16.02 愛知陸協	山本 雄介 15.53 小島プレス	伊藤嶺一郎 15.08 中京大
砲丸投(7.260kg)	久保 浩司 14.45 中京大クラブ	越 寛将 13.77 至学館高	久保 博規 13.54 中京大クラブ
円盤投(2.000kg)	久保 博規 44.88 中京大クラブ	山形 洋平 44.69 中京大クラブ	越 寛将 41.04 至学館高
ハンマー投(7.260kg)	久保 浩司 60.45 中京大クラブ	一柳 英之 56.00 中京大	北浦 弘之 53.91 中京大クラブ
やり投(0.800kg)	下り藤修大 67.10 小島プレス	大島 知之 61.24 半田高	花井 章宏 60.23 名古屋市消防局

女子

(GR: 大会新記録 / EPJ: 県中学タイ記録)

種目	1位	2位	3位
100m	山田 恵里 12.10 中京大中京高	前川 奈央 12.24 都留文科大	征矢 萌唯 12.38 至学館高
200m	山田 恵里 24.71 中京大中京高	北野 有紀 24.88 愛知淑徳高	萩原加奈子 25.48 豊橋南高
400m	竹内麻里子 57.38 中京大中京高	浅岡加世子 58.30 トヨタ自動車	吉川 侑希 58.66 中京大中京高
800m	竹内麻里子 2.10.75 中京大中京高	清田 真央 2.15.33 中京大中京高	服部 優亜 2.15.87 名城大附属高
1500m	森 彩夏 4.22.37 豊田自動織機	安藤 友香 4.25.30 豊川高	清田 真央 4.27.05 中京大中京高
100mH(0.840m)	岸 沙耶香 13.84 小島プレス	山崎由加里 14.08 栄新薬	飯田 美咲 14.27 名城大附属高
400mH(0.762m)	浅岡加世子 59.85 トヨタ自動車	大谷友梨恵 1.00.40 至学館大	西尾真梨子 1.01.74 至学館大
5000mW	占部 磨美 25.19.88 三菱自動車岡崎	浜本 桂 25.52.26 千種高	村上 瑠菜 26.25.71 惟信高
走高跳	笹島 藍 1.68 愛知アスリート	松本明日美 1.65 中京大クラブ	北島 菜瑠 1.65 瑞陵高
棒高跳	高木 志帆 3.20 中京大中京高	牛田智菜美 3.20 至学館大	佐藤 愛 3.00 千種中 EPJ
走幅跳	中田 有紀 5.75 日本保育サービス	布施 和花 5.69 至学館高	小川 詩織 5.56 愛知アスリート
三段跳	小川 詩織 12.01 愛知アスリート	伊藤由香里 11.67 中京大クラブ	北島 菜瑠 11.24 瑞陵高
砲丸投(4.000kg)	藤澤 華子 12.25 中京大	近藤 瞳 11.84 津島北高	伊東亜優美 10.83 日体大

種目	1位	2位	3位
円盤投 (1.000kg)	北見 仁美 39.05 東海大	近藤 瞳 38.16 津島北高	高木 美波 34.66 中京大
ハンマー投 (4.000kg)	野田 奈央 57.00 エヴァクラブ	辻本ゆかり 45.51 長久手高	近田 茜 43.69 国際武道大
やり投 (0.600kg)	高塚 裕子 47.94 名城大附属高	東野 麻衣 42.17 愛知陸協	浅井 美咲 40.06 至学館高
3000mSC (0.762m)	空山真由美 10.52.94 小島プレスGR	平岡 知佳 11.48.60 小島プレス	大山 早紀 12.05.11 岡崎城西高

**平成23年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
秩父宮賜杯第64回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成23年8月3日(水)～8月7日(日) 北上総合運動公園北上陸上競技場**

男子

種目	順位	記録	氏名	学校名
800m	4	1.51.90	新橋 基功	岡崎城西
1500m	6	3.49.40	小山 裕太	豊川工
5000m	3	14.5.45	カレミ ズク	豊川
	7	14.18.15	小山 裕太	豊川工
110mH	5	14.55	清水 陽平	中京大中京
	8	14.74	里地 勇飛	中京大中京
400mH	1	51.72	岡田 壮平	名古屋
5000mW	2	21.29.15	杏名 貴輝	豊川工
	3	21.30.33	戸松 弘成	一宮西
4×100mR	7	41.12	掛川 真	名古屋
			渡辺 将志	
			掛村 将之	
			金森 怜也	
4×400mR	7	3.15.13	木屋川内浩二	名古屋大谷
			鷺見 建亮	
			川野 直哉	
			宮崎 海悠	
走高跳	7	2.01	槽谷 隆明	中京大中京
走幅跳	6	7.20	鈴木 舜也	成章
砲丸投	7	15.59	越 寛将	至学館
ハンマー投	2	62.72	墨 訓熙	起工

女子

種目	順位	記録	氏名	学校名
100m	8	12.19	山田 恵里	中京大中京
200m	3	24.63	山田 恵里	中京大中京
	7	24.97	北野 有紀	愛知淑徳
800m	2	2.06.21	竹内麻里子	中京大中京
3000m	1	9.04.55	ワイナイナ ムルギ	豊川
走幅跳	4	5.80	布施 和花	至学館
やり投	5	47.64	高塚 裕子	名城大附
学校対抗最終成績	7位：中京大中京 14点			

**第28回東海小学生リレー競走大会
期日：平成23年8月28日(日) 瑞穂公園陸上競技場**

男子

種目	順位	氏名	所属	記録
4×100mR	1	本田 和馬 藤本 高壮 野村 信次 江川 誠人	安城 JAC	51.92
	6	仲井 陽大 前橋 峻太郎 森川 伸太郎 中野 翔基	田原陸上ク	54.21

女子

種目	順位	氏名	所属	記録
4×100mR	5	松井 葉奈 久野 景子 中村 絵莉 土方 若菜	豊橋陸上ク	55.94
	6	鈴木 麻那 宮川 真優 柴田 悠 河合 穂波	田原陸上ク	55.99
	8	古橋 佳奈 横井 さえ 鈴木 香音 森田 朱音 祐美	なごや陸上ク	56.91

混合

種目	順位	氏名	所属	記録
4×100mR	1	宮川 愛海 浅岡 陽名 中島 亨 戸田 健太	安城 JAC	55.34
4×100mR	3	荒田 和花 生田 奈緒子 松山 卓暉 村田 響	豊橋陸上ク	56.65

**第54回東海陸上競技選手権大会兼第96回日本陸上競技選手権大会予選会
平成23年8月27日(土)・28日(日) 瑞穂公園陸上競技場**

男子

種目	順位	氏名	所属名	記録
100m	1	田中 星次	トヨタ自動車	10.91
	2	中川 恵輔	中京大	10.94
	4	高橋 周治	東海高	10.99
200m	1	屋貝 博文	中京大	21.10
	2	寺田 健人	栄徳高	21.57
	4	安井 一樹	中京大	21.83
400m	1	牧野 武	早稲田大	47.20
	2	恩田 健人	東洋大	47.63
	6	安井 一樹	中京大	48.04
800m	5	沼田 拓也	トヨタ自動車	1.58.99
1500m	7	山口 哲司	三菱自動車岡崎	4.11.92
5000m	1	阿宗 高広	愛三工業	14.27.47
	2	鈴木 伸司	愛三工業	14.27.98
	3	船越 大輔	愛三工業	14.28.81
	5	石田 康雄	愛知製鋼	14.41.85
	8	藤井 輝	愛三工業	14.49.35
10000m	1	池田麻保呂	愛知製鋼	30.15.30
	2	坂井 俊介	中央発條	31.26.24
	4	松本 淳	愛知製鋼	31.31.47
	6	岸村 好満	愛三工業	31.53.80
110mH	1	飯田 将之	チームミズノ	14.01
	3	古川裕太郎	小島プレス	14.19
	4	吉岡 康典	愛知陸協	14.35
400mH	4	山田 瑞輝	中京大	54.04
	5	森下 創史	中京大	54.65
3000mSC	1	加藤 聡	トヨタ自動車	9.08.93
	2	赤染 健	中央発條	9.18.19
	3	平松 翔太	岡崎城西高	9.28.01
	4	井上 圭人	TEAM KAKERU	9.29.63
	8	竹内 大地	中京大中京高	9.37.12
5000mW	1	杉本 明洋	merclair	20.31.74
	5	大坪 鷹人	名古屋 AC	22.38.28
	7	山本 崇裕	至学館大	23.15.48

種目	順位	氏名	所属名	記録
4×100mR	3	大野 将士 南 晋太郎 山崎 翔太 市川 太徹	中京大	41.02
	6	掛川 真 古元 翼 近藤 啓太 藤森 恰也	名古屋高	41.51
4×400mR	3	水野 航 野澤 俊輔 伊東 雅哲 宮本 和佳	愛知学院大	3.15.83
	6	木屋川内浩二 鷺見 建亮 川野 直哉 中西 雄輝	名古屋大谷高	3.17.59
走高跳	1	舟瀬 勇太	中京大	2.13
	4	加藤 紀一	名古屋工業大	2.00
	5	真鍋 周平	トヨタ自動車	2.00
	7	市川 靖真	中京大	1.95
棒高跳	2	近藤 清貴	中京大	5.10
	3	山本 聖途	中京大	5.00
走幅跳	1	近田 竜雅	関西学院大	5.00
	2	木村 友紀	愛知陸協	7.66
	6	西 航司	日本大	7.46
三段跳	1	南 晋太郎	中京大	7.21
	2	木村 友紀	愛知陸協	15.58
砲丸投	2	山本 雄介	小島プレス	15.58
	6	加藤 源樹	トヨタ自動車	13.54
円盤投	7	越 寛将	至学館高	13.51
	5	久保 博規	中京大クラブ	44.61
	6	山形 洋平	中京大クラブ	42.59
ハンマー投	7	越 寛将	至学館高	42.25
	1	久保 浩司	中京大クラブ	63.93
	3	墨 訓熙	起工高	55.33
やり投	5	北浦 弘之	中京大クラブ	53.83
	4	下り藤修大	小島プレス	66.42
	8	榊原 寛紀	豊田自動織機	60.11

種目	順位	氏名	所属名	記録
400mH	1	齋藤 結	中京大	59.27
	2	浅岡加世子	トヨタ自動車	1.00.13
	3	大谷友梨恵	至学館大	1.00.77
	5	中井 朝日	至学館高	1.04.28
	6	西尾真梨子	至学館大	1.05.05
	3000mSC	1	花岡 紗耶	愛知教育大
2		空山真由美	小島プレス	10.59.96
3		平岡 知佳	小島プレス	11.03.17
5		大山 早紀	岡崎城西高	11.56.71
6		松本 成美	安城学園高	12.58.88
5000mW		1	占部 磨美	三菱自動車岡崎
	8	加藤 未紗	至学館大	25.42.55
4×100mR	1	布施 和花 野村 真由 吉川有香子 征矢 萌唯	至学館高	47.53
	2	杉山 美貴 山田 惠里 西川 彩乃 兼子あさみ	中京大中京高	48.08
	6	吉田 真樹 飯田 美咲 片山 依瑠 足立 香澄	名城大附属高	48.50
	7	水上 祥子 後藤 菜月 後藤 奈香 藤岡 稚子	至学館大	48.60
	1	吉川 侑希 山田 惠里 西川 彩乃 竹内麻里子	中京大中京高	3.51.42
	2	杉浦 真梨 伊藤 亜依 大谷友梨恵 塩野谷幸依	至学館大	3.53.62
4×400mR	5	浅岡加世子 大賀 理加 吉村 美紀 野村 希	トヨタ自動車	4.03.50
	7	大久保沙希 水野 杏美 伊藤 麻月 村山 菜月	至学館高	4.04.33
	1	松本明日美	中京大クラブ	1.71
走高跳	6	杉浦 澄美	岡崎城西高	1.65
	6	笹島 藍	愛知アスリート	1.65
	8	北島 茉璃	瑞陵高	1.65
棒高跳	8	高木 志帆	中京大中京高	3.20
走幅跳	2	中田 有紀	日本保育サービス	5.72
	4	布施 和花	至学館高	5.55
	5	酒井 瞳味	岡崎城西高	5.52
三段跳	2	小川 詩織	愛知アスリート	12.57
	5	北島 茉璃	瑞陵高	11.92
	6	伊藤由香里	中京大クラブ	11.68
砲丸投	5	藤澤 華子	中京大	12.10
	6	近藤 瞳	津島北高	12.07
	7	伊東亜優美	日本体育大	11.43
	1	江島 成美	チームミズノ	50.35
円盤投	2	加藤 千枝	至学館大	41.40
	3	近藤 瞳	津島北高	40.48
	4	高木 美波	中京大	39.23
	7	北見 仁美	東海大	37.82
ハンマー投	1	野田 奈央	エヴァクラブ	59.68
	6	近田 茜	国際武道大	44.59
	7	辻本ゆかり	長久手高	44.29
やり投	2	高塚 裕子	名城大附属高	47.90

女子

太字は大会新

種目	順位	氏名	所属名	記録
100m	3	前川 奈央	都留文科大	12.40
	6	山田 恵里	中京大中京高	12.55
200m	1	山田 恵里	中京大中京高	25.26
	6	成瀬 玲子	豊明高	26.24
400m	2	木引悠起子	愛知教育大	56.20
	5	水口 小夜	筑波大	57.15
	6	竹内麻里子	中京大中京高	57.41
	7	浅岡加世子	トヨタ自動車	57.92
800m	8	吉川 侑希	中京大中京高	58.27
	1	竹内麻里子	中京大中京高	2.09.85
	6	服部 優亜	名城大附属高	2.16.42
1500m	1	清田 真央	中京大中京高	4.27.54
	2	田鍋 舞	愛知電機	4.29.34
	3	荘司 麻衣	岡崎学園高	4.29.53
	4	高橋 季香	中京大中京高	4.35.39
5000m	1	清田 真央	中京大中京高	16.49.73
	3	田藤 妙如	中京大中京高	17.41.86
	5	近藤 華葉	中京大中京高	18.02.16
	8	伊藤 麻央	中京大	18.12.15
100mH	1	岸 沙耶香	小島プレス	14.19
	2	山崎由加里	栄新薬	14.21
	6	中田 有紀	日本保育サービス	14.98
	7	兼子あさみ	中京大中京高	15.12

理事会等会議報告

○常務理事会 23年7月6日(水) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①愛知選手権大会選手権賞等の寄贈者について
 ・男女最優秀選手賞及び各種目選手権者の「選手権賞寄贈者」を決定する。梅村清弘氏他46名。
- ②愛知陸上競技協会会長表彰候補者について
 ・尾張支部4名、名古屋支部3名、西三河支部3名、計10名が選ばれる。

2 報告事項

- ①第3回法人化準備委員会について
 ・今年度中の法人化に向けての進捗状況
- ②平成23年度日本陸連加盟団体連絡協議会について
- ③マラソンフェスティバル愛知陸協実行委員会について
- ④日本ジュニア・ユース選手権大会について
- ⑤アジアインターシティ陸上競技大会について
- ⑥第24回愛知県勤労者スポーツ大会について
- ⑦各専門委員会報告
 ・審判委員会
 審判報奨各支部内訳について
 ・施設器具委員会
 田辺投擲練習場について
- ⑧その他
 ・第19回日・韓・中ジュニア交流競技会について
 ・愛知陸協会長表彰規定見直しの要望について
 総務委員会で検討する

○理事会 23年8月11日(木) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①国民体育大会代表(役員・選手)の選考について
 ・すべて承認される。
- ②国民体育大会代表選手の強化合宿について
 ・強化委員会より提案があり了承される。

2 報告事項

- ①全国高校総体陸上競技大会の成績について
- ②日本ジュニア・ユース選手権大会について
- ③第19回日韓中ジュニア交流競技会について
- ④第45回ろうあ者体育大会について
- ⑤第54回東海陸上競技選手権大会について
- ⑥マラソンフェスティバルについて
- ⑦アジア・インターシティ陸上競技大会について
- ⑧各専門委員会の報告
- ⑨その他
 ・法人化について
 ・第38回全日本中学陸上選手権大会出場者について
 ・東海中学総合体育大会陸上競技大会結果について
 (稲垣 裕)

栄章

おめでとうございます

○愛知陸上競技協会会長表彰

平成23年7月16日(土)・17日(日)に瑞穂公園陸上競技場で、第71回愛知陸上競技選手権大会が実施されました。その二日目に競技場メインスタンド前にて、本年度の愛知陸上競技協会会長表彰式がおこなわれました。

長年の愛知陸協への貢献が認められ、表彰された方は、

次の10名の皆さんです。おめでとうございます。



原川 豪(尾張支部) 杉山 裕二(尾張支部)
 鋳持 悦夫(尾張支部) 田口 茂(尾張支部)
 青木 実(名古屋支部) 水野 隆夫(名古屋支部)
 砂子間英明(名古屋支部) 本間 隆勝(西三河支部)
 稲垣 早美(西三河支部) 永田 敏也(西三河支部)

また、日本陸連より高校優秀選手章に糟谷隆明(中京大中京)、中学優秀選手章に萩原加奈子(豊橋高豊)の2選手が表彰されました。おめでとうございます。



○國分一郎氏へ記念品贈呈

平成23年8月27日(土)・28日(日)に瑞穂公園陸上競技場で、第54回東海陸上競技選手権大会が実施されました。その一日目に競技場メインスタンド前にて、長年の東海陸上競技協会への貢献が認められ、國分一郎氏に記念品贈呈の式が行なわれました。國分一郎氏は日本陸連の理事をはじめ東海陸協の理事長、愛知陸協の副会長、理事長を歴任し、現在愛知陸上競技協会の名誉副会長。(稲垣 裕)



編集後記

東日本大震災や猛暑・台風などの影響があったものの、今シーズン上半期が終わった。世界陸上での地元愛知出身の室伏選手の大活躍が記憶に新しい。喜ばしい限りである。また、今年度、愛知陸協が担当した日・韓・中ジュニア交流競技会や東海選手権などの巡り合わせで、8/20～28の9日間で、8日間も瑞穂グラウンドへ通った審判員がいると聞く。誠にお疲れ様。

シーズン後半の全日本ジュニア・ユース大会などにも競技者が大いに活躍できるよう、陸協一丸となって競技会を支える取り組みが期待される。

編集委員

占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 小坂 拓
 榊原 英司 新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭
 横田小百合